令和４年度

「ゆがふう塾」市町村職員研修事業

第２４期生　報告書

中部広域市町村圏事務組合

目　　次

●令和４年度「ゆがふう塾」市町村職員研修事業実施要綱・・・・ 1

●令和４年度「ゆがふう塾」市町村職員研修事業研修日程・・・・ 4

●令和４年度「ゆがふう塾」第24期生名簿・・・・・・・・・・・・ 5

●各グループ最終報告書

チームレッド（１グループ）

たくさんの人が行き交うまちかでな

かでな彩発見★嘉手納町をもりあげる！・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

チームガリレオ（２グループ）

学び続けるまちかでな　～生涯学習で産業の活性化は可能か～・・・・・29

チームキャンキャン（３グループ）

嘉手納リベンジャーズ　～町民の“声”をカタチに～・・・・・・・・・・45

●ゆがふう塾に参加して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

●資　料

研修の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73

令和４年度「ゆがふう塾」市町村職員研修事業実施要綱

１　目的

本研修では、講座を通して地方自治の本質を学び、研究テーマを通して地域の課題を発見し、共同調査・研究することで課題発見能力を高め、今後の地方自治の発展に資することを目的とする。

２　開講期間

本研修の開講期間は、令和４年４月１日より３月３１日までの１年間とする。

３　講義と自主研究

(1)　本研修は、講義と自主研究で構成する。

(2)　講義は、１講義を３時間とする。

(3)　自主研究は、グループで研究テーマに関する調査・研究（グループワーク、学識経験者・地域関係者意見聴取及びアンケート調査等）を実施する。

４　内容及び日程

(1)　令和４年度のテーマ市町村は「嘉手納町」とし、講義内容はテーマ市町村の地域課題に沿った講義内容とする。

(2)　講座開講日及び自主研究の日程は別に定める。

(3)　最終報告会は、市町村等の関係者を招いて開催するものとする。

(4)　その他、民間塾、研究会等との交流ができるものとする。

５　募集期間

塾生の募集は、令和３年３月２４日（木）から令和４年４月２２日（金）までとする。ただし、事情により延長することができる。

６　塾生の要件

応募できる塾生については、次の要件を備えたものとする。

(1)　正規塾生

構成市町村職員で、採用から３年以上経過した２１歳以上４

０歳未満の職員で、市町村長が推薦する職員とし、人数は各市町村２名以内とする。

(2)　特別聴講生

構成市町村長の特別の推薦があり、塾長及び事務局が認めたものについては、特別聴講生として入塾することができる。

(3)　講座選択受講生

構成市町村の職員で、塾が開設する講座を選択して受講しようとするものは、当該講座の実施日の１か月前までに構成市町村の職員研修担当者を経て事務局に申し込み、塾長及び事務局の承認を得たうえで受講できるものとする。

7　入塾及び修了認定

(1)　理事長は、塾生に対し入塾時に入塾証、修了時に修了証を交付する。

(2)　次の２つの基準をすべて満たしたものを研修修了者として認定する。

ア　全講義コマ数の３分の２以上に出席したもの(やむをえない事情によるオンラインでの出席も含む。)。ただし、講義には自主研究は含まない。(通常の講義を１コマ、宿泊研修を２コマと数える)

イ　最終報告書並びに研修感想文、研修アンケートのすべてを提出したもの。

(3)　業務の都合又は療養等の事由により上記の基準を満たさない場合は、塾生の所属長及び理事長の協議により修了保留とすることができる。修了保留とされた塾生は、次年度にかぎり、継続して塾生となることができる。

8　塾生の自主研究

(1)　塾は、塾生の自主的かつ主体的な調査、研究、発表のための時間を設けることができる。

(2)　塾生は、互選によりリーダー及びサブリーダーを各々１名選出し、自主研究の運営に当たる。

(3)　塾生は、自主研究テーマに基づく調査、研究を行う。

(4)　塾生は、講師に対し自主研究テーマに係る助言を求め指導

を受けることができる。

(5)　自主研究は、おおむね月曜日から金曜日までの平日の勤務時間内に行うことを原則とし、会場は関係市町村庁舎もしくは関係団体の会議室、又は事務局が手配した会場等を使用する。

9　最終報告会

塾生は、最終報告会を開催し、調査、研究等活動成果を報告する。

10　提出物

塾生は研修の成果として、最終報告書、研修感想文、研修アンケートを提出する。

令和4年度「ゆがふう塾」市町村職員研修事業　研修日程

日付	曜日	時間	内　容	講　師	会　場（予定）
5月13日	金	15:00～17:00	入塾式・修了式 特別講話　テーマ「沖縄の経済自立化と振興策、沖縄振興基本計画と政策の要点」	塾長　宮平　栄治 （名桜大学　国際学群教授）	沖縄市産業交流センター 大研修室
5月19日	木	14:30～17:30	宿泊研修 講義①政策立案と調査 講義②調査技法講座	塾長　宮平　栄治 （名桜大学　国際学群教授）	会場：マルチメディアセンター 宿泊：ローヤルホテル（読谷村）
5月20日	金	9:00～12:00			会場：マルチメディアセンター
6月3日	金	14:00～17:00	ワークショップ・チームビルディング	プラスコミュニケーションズ 代表　島袋　十史樹	比謝川自然体験センター
6月10日	金	14:00～17:00	ワークショップ・ファシリテーション	プラスコミュニケーションズ 代表　島袋　十史樹	比謝川自然体験センター
6月24日	金	14:00～17:00	まちづくりのテーマ設定	合同会社Happy　Joy 代表　幸喜　穂乃	マルチメディアセンター
7月8日	金	10:00～17:00	まちづくりのテーマ設定	合同会社Happy　Joy 代表　幸喜　穂乃	マルチメディアセンター
7月～9月	自　主　研　究				
7月22日	金	14:00～17:00	各グループ企画書発表	塾長　宮平　栄治 （名桜大学　国際学群教授）	嘉手納町総合福祉センター
9月2日	金	14:00～17:00	中間発表	塾長　宮平　栄治 （名桜大学　国際学群教授） 島袋　十史樹、幸喜　穂乃	中部市町村会館　第２会議室
10月7日	金	14:00～17:00	報告会リハーサル	塾長　宮平　栄治 （名桜大学　国際学群教授）	かでな未来館
10月14日	金	14:30～17:00	最終報告会 in 嘉手納	塾長　宮平　栄治 （名桜大学　国際学群教授）	かでな未来館

ゆがふう塾第２４期生名簿

No.	市町村	所属課	氏　名
427	沖縄市	文化芸能課	平良　実可子
428	うるま市	水道総務課	比嘉　健人
429	うるま市	国民健康保険課	平安座　大樹
430	宜野湾市	人事課	下地　咲貴
431	宜野湾市	税務課	平良　拓真
432	北谷町	企画財政課	屋比久　徳樹
433	北谷町	学校教育課	仲宗根　諒
434	嘉手納町	企画財政課	喜屋武　将
435	嘉手納町	総務課行政係	濱元　勇子
436	西原町	文化課	上里　幸
437	西原町	都市整備課	上里　玄
438	読谷村	商工観光課	大城　愛士
439	読谷村	住民年金課	当山　智世
440	北中城村	住民生活課	照屋　愛莉
441	北中城村	生涯学習課	金城　徹
442	中城村	こども課	花城　圭亮
443	中城村	産業振興課	比嘉 由美

Ⅰグループテーマ

たくさんの人が行き交うまちかでな

かでな彩発見★嘉手納町をもりあげる！

チームレッド　メンバー

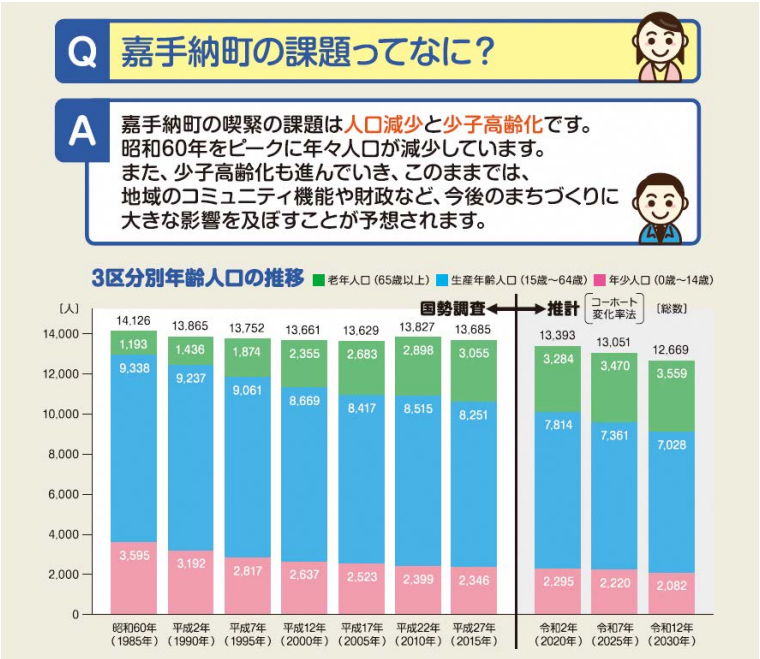
沖 縄 市	文化芸能課	平良　実可子
西 原 町	都市整備課	上里　玄
読 谷 村	住民年金課	当山　智世
中 城 村	産業振興課	比嘉　由美
北 谷 町	学校教育課	仲宗根　諒
うるま市	国民健康保険課	平安座　大樹

目次

1. はじめに
2. 嘉手納町の現状
3. 現状から見える課題
4. 調査・研究・提案
5. まとめ
6. 最終報告会における質疑への回答

1. はじめに

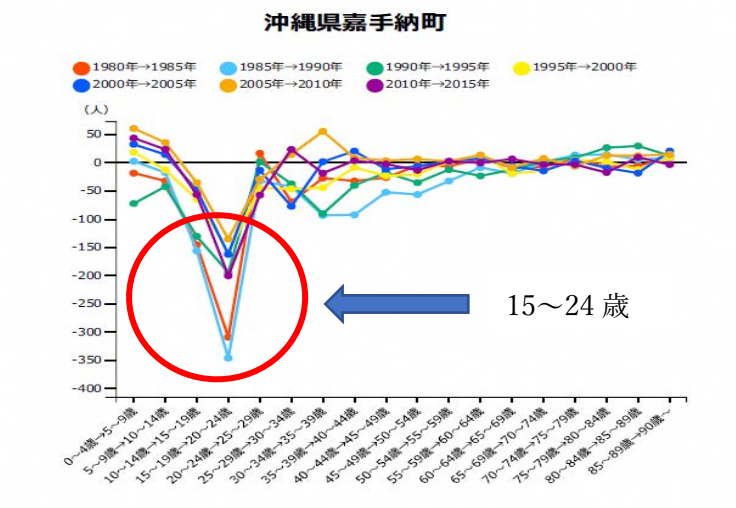
嘉手納町が発行している「第５次嘉手納町総合計画」において少子高齢化と人口減少が課題とされている。しかし、沖縄県全体、中部圏域自治体においては増加傾向にあることから、「嘉手納町の人口減少」に着目し、この問題解決のためには「地域経済が活性化しており、町内・町外のたくさんの人が行き交っていることが重要なのではないか」と考え、当該研修のテーマを「たくさんの人が行き交うまち　かでな　～かでな彩発見☆嘉手納町をもりあげる！～」と設定した。



【出典】「第５次嘉手納町総合計画　前期基本計画　ダイジェスト版」

２.嘉手納町の現状

嘉手納町の転入転出者の現状

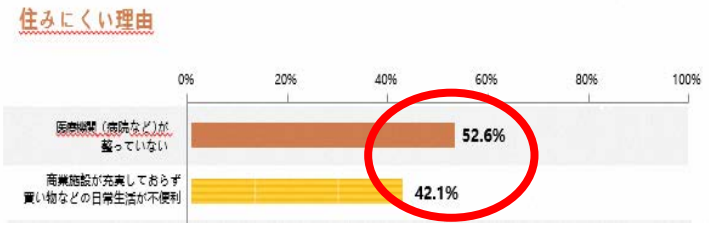


【出典】「RESAS 地域経済分析システム」『内閣官房・内閣府総合 地方創生のウェブサイト』
〈https://resas.go.jp/data-analysis-support/#/population-social-movement/47/47325/1/-〉

嘉手納町の転出者の内訳は、グラフより 15 歳から 24 歳が最も多く転出し、また、それ以外の年齢層（生産年齢層）においても転出者は多く、転入者は少ないことが分かる。このことから、就学・就職のため転出した嘉手納町民が地元へ戻ってきていない事が想定される。
人口減少の要因の仮説を立てるため、「第５次嘉手納町総合計画」の町民アンケートを見て検討を行った。

①第５次嘉手納町総合計画より

		1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	6 無回答	全体
産業・経済	⑰商業施設が身近にあり買い物などの利便性が高い	14.1%	27.4%	29.8%	14.1%	5.1%	9.6%	100.0%
	⑱町内での就労機会が多い	2.0%	5.8%	37.7%	23.6%	13.7%	17.1%	100.0%
	⑲企業誘致や商工業の支援などの取組みが充実している	2.3%	9.2%	43.7%	19.5%	9.0%	16.2%	100.0%
	⑳地場産品の販売促進や農水産業への支援が充実している	1.8%	8.3%	43.0%	23.3%	8.8%	14.8%	100.0%



【引用】第５次嘉手納町総合計画
前期基本計画 P183　P188

第５次嘉手納町総合計画」の町民アンケートより、雇用については、町内での就労機会が少ない・企業誘致や商工業の誘致が充実していない・地場産品の販売促進や農水産業への支援の充実化等の不満がある。また、住環境について住みにくい理由の中に医療機関が整っていないことや、商業施設が充実しておらず日常生活に不便を感じている住民がいる現状が把握されている。

３.現状から見える課題

嘉手納町の人口減少問題について、現状のデータ及び総合計画の町民アンケートから、当該研修下記の仮説を立て、解決するための改善案を模索した。

仮説

雇用や住みにくさについて不満がある現状を知っているため、一度転出するとUターンで戻ってくるメリットを感じないのではないか。

仮説から考える改善案

地域経済の活性化により嘉手納町が賑わいのある発展した街になることで、Uターン・転入の意欲を増進させ人口減少を図る。

４.研究・調査・課題

フィールドワーク

具体的な提案を検討する前に、嘉手納町内のフィールドワークを行った。
フィールドワークした主要なスポットは下記のとおりである。

・比謝川
（屋良城址公園までの河川沿道・カヤック体験）
・道の駅かでな
・新町通
・兼久海浜公園
・ネーブルカデナ

Etc…

フィールドワークを行い感じたこと

プラスな印象
・自然が豊か
・町外県民が知らない魅力が多かった
・町域がコンパクトなため、各スポットにアクセスしやすい
マイナスな印象
・歩行者が少ない
・公園・商業施設等の老朽化が進んでおり、廃れた印象が有り、活用しきれていない

県外からの観光客数

2021年

	滞在人口最多月（休日）	滞在人口最少月（休日）	年間都道府県外訪問者（14時）	滞在人口最多都道府県（自都道府県を除く）	年間宿泊者数（自都道府県を除く）
沖縄県	－	－	388,497人	－	9,917,583人
沖縄県嘉手納町	8月	3月	788人	東京都	－
沖縄県沖縄市	5月	1月	10,172人	東京都	27,409人
沖縄県読谷村	8月	11月	10,784人	東京都	455,445人
沖縄県北谷町	12月	1月	15,874人	東京都	365,262人
沖縄県金武町	8月	7月	1,790人	東京都	868人
沖縄県本部町	11月	6月	18,686人	東京都	528,637人

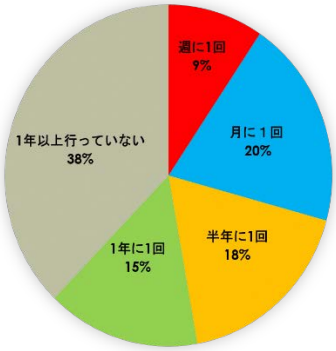
【出典】「RESAS 地域経済分析システム」『内閣官房・内閣府総合 地方創生のウェブサイト』
〈https://resas.go.jp/data-analysis-support/#/population-social-movement/47/47325/1/-〉

県外からの観光客数についてはより近隣市町村や類似団体よりも少ないことがわかった。

県内町民アンケート
町外から見た嘉手納町のイメージを把握するため、アンケートをおこなった。今回行ったアンケートは当該グループメンバーの市町村（西原町、中城村、北谷町、沖縄市、うるま市、読谷村）の職員で、中学生以下の子供がいる方を対象とした。回答者数は、106 名であった。

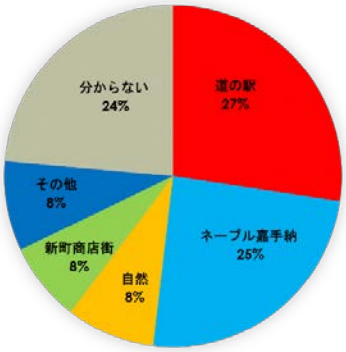
①嘉手納町に訪れる頻度

Q　嘉手納町にどれくらいの
　　頻度で訪れますか？



②嘉手納町の魅力

Q　嘉手納町の魅力は
　　なんだと思いますか？

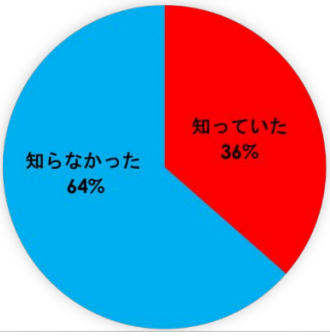


N=106

①嘉手納町を訪れる頻度（左のグラフ）について
回答者の約４割が嘉手納町へ１年以上訪れていないという結果となった。
②嘉手納町の魅力（右のグラフ）について
道の駅やネーブル嘉手納の回答に並んで、「わからない」という回答が全体の 1/4 を占めた。
その他については、音楽イベントや給食費が無料、甘藷伝来の地という回答があった。

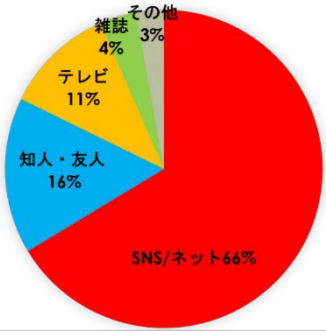
③比謝川カヤック・SUP の認知度

Q　比謝川でカヤックや SUP に乗りながらマングローブ見学やサンセットツアーができることを知っていましたか？



④「遊び」の情報源

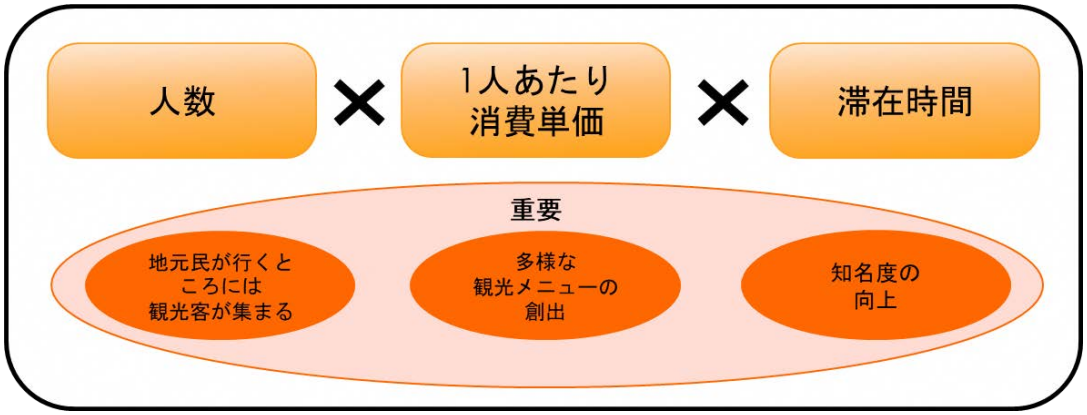
Q　県内の遊びの情報を主に
　　どこから仕入れますか？



N=106

③比謝川カヤック・SUP 体験の認知度（左のグラフ）について
60 パーセント以上の人が知らないという回答となり、広報にも力を入れる必要性がある。
④「遊び」の情報源（右のグラフ）について
64％の人が SNS やネットから情報を得ていることがわかった。

まちが盛んである、賑やかなまちの基準とは
当該研修のテーマにもある「まちが盛り上がる、賑わうまち」とはどういった状態なのかを名桜大学の東恩納先生より教授頂いた。
「人数×１人あたりの消費単価×滞在時間」が高い状態であるとのことだった。また、地元民が集まるところには自然と観光客も集まってくる傾向があるとも教わった。



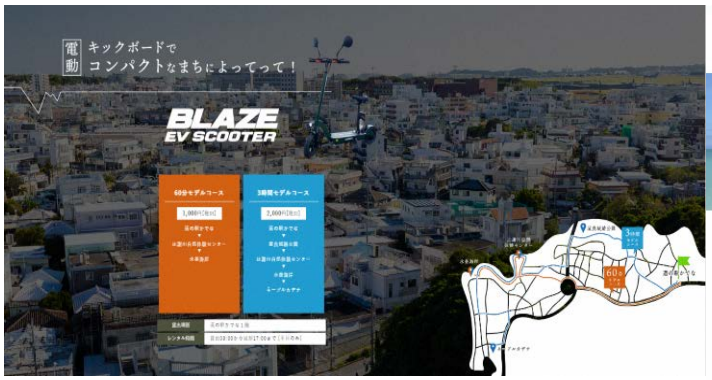
そのことから、私たちは、観光産業の振興が更なる賑わいのあるまちにつながると考え、観光産業に重点を置いた提案を検討することにした。

「賑わいのあるまち」の定義の設定
「賑わいのあるまち」＝人数×一人あたりの消費単価×滞在時間
「地域経済の活性化」＝雇用の拡大・創出
と定義づけ検討した。

研究する際の諸条件
・ターゲット　⇒　子育て世代（ファミリー層）
・「人数×一人あたりの消費単価×滞在時間」
・雇用の拡大・創出
について複合的に検討を行った。

嘉手納町のツアー

現在、嘉手納町ではどのような観光プランがあるのかを調べたところ、比謝川タクシーによる観光ツアーやキックボードで嘉手納町を回るツアーが開始されている。



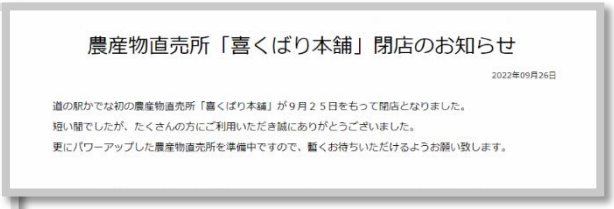
【出典】比謝川タクシー｜観光タクシーもお任せ！沖縄県嘉手納のタクシー会社です。 ＜hijagawa-taxi.com＞

道の駅かでな

2階レストラン「オキナワン ステーキ　ハレレア ダイナー」新規オープンのお知らせ

2022年10月05日

お待たせしました！！
遂に2階レストランが10／10（祝）にオープンします！
嘉手納町民も望んでいたステーキ屋さんです。
ハンバーグやクレープなどメニューもたくさん！もちろんアルコールもあります！！
オープン記念で10／10（祝）と10／11（火）は
1，000円メニュー（一部）が**半額の500円！！**
この料金でこの肉は他では食べられません！味も文句なし！！
※豊見城の人気店「1000円ステーキ」と同じお店さんです
店名：「OKINAWAN STEAK HALELEA DINNER」


農産物直売所「喜くばり本舗」閉店のお知らせ

2022年09月26日

道の駅かでな初の農産物直売所「喜くばり本舗」が9月25日をもって閉店となりました。
短い間でしたが、たくさんの方にご利用いただき誠にありがとうございました。
更にパワーアップした農産物直売所を準備中ですので、暫くお待ちいただけるようお願い致します。

【出典】観光協会｜よってって！嘉手納町
＜kadenayottette.com＞　（閲覧日：2022.10.5）

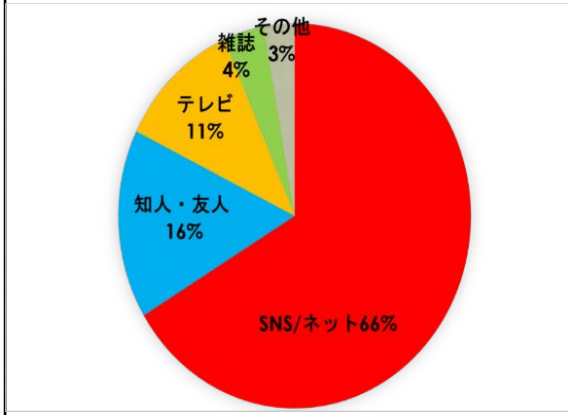
道の駅かでなは R4.4 月にリニューアルオープンした。2 階のステーキのお店が R4.10 月中旬よりオープン、農産物直売所も新規オープン準備中、学習展示室も R5 年にリニューアル予定なので、これからさらに集客が見込める。
嘉手納町観光協会は、昨年度設立されたばかりで、嘉手納町の観光は、ゆがふう塾の研修中も、新しい取り組みを開始しているので、広報をさらに強化し、集客アップへ繋げることが重要である。

広報について

「遊び」の情報源

Q　県内の遊びの情報を主に
　　どこから仕入れますか？

【引用】｜情報通信政策研究所｜令和３年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」



	20代	30代	40代	50代
Twitter	78%	57%	44%	34%
Facebook	35%	45%	41%	31%
Instagram	78%	57%	50%	38%
TikTok	46%	23%	18%	15%
YouTube	97%	96%	93%	82%

先ほども載せたファミリー層の遊びについての情報源について、SNS から情報を得ている方が 67%と多く、総務省のデータより、年代別で見てみると、年代で使用している SNS の種類のパーセンテージに差があることが分かった。
また、どの年代も「YouTube」や「Instagram」を利用している人が多かった。

成功事例

神奈川県葉山町

実際に、SNS を使用して、地域活性化が行われている市町村があるのかを調べたところ、神奈川県の葉山町はターゲットを若い女性に絞ることで、公式インスタグラムのフォロワー数が人口 33,000 人に対し、37,000 人を超えている。
葉山町では人口のゆるやかな減少と急激な高齢化が課題になっていたが、インスタグラムのアカウントを開設した 2015 年度に人口が大きくプラスに転じた。

【出典】葉山町（神奈川県三浦郡葉山町）
＜hayama_official＞ Instagram 写真と動画

嘉手納町観光協会・Instagram・ホームページ

嘉手納町観光協会のホームページや Instagram はどうなっているのか調べた。ゆがふう塾が始まった当初は観光協会のホームページがなかったが、8 月末にホームページが開設され、情報が網羅されており、Instagram も映える写真がたくさんあった。現在、嘉手納町の観光協会は発足したばかりで、伸びしろが大きいと考える。
インターネットは基本的に自分から情報を検索するため、多くの人が嘉手納町観光協会のホームページや Instagram にたどり着き、嘉手納町について知ってもらうにはどうすれば良いのかを検討した。

【出典】観光協会|よってって！嘉手納町
＜adenayottette.com＞

SNS 広告

ホームページや Instagram へ誘導することができる方法として、SNS 広告を打つことも 1 つの手法である。まず、年代で利用している SNS に差があるため、年代別に多く利用しているアプリを選定し、趣味や関心に基づいたターゲティングを行い、広告流すことで、ターゲットを絞った広告ができる。また、Instagram では、それぞれの分野での影響力が強いインフルエンサーがいるので、ぜひそのテーマにあった有名人に取材をしてくれることで、拡散されやすくなる。

【CPM】広告　1,000 回表示あたり 0.5 円～1 円
表示されるだけで料金が発生するので認知度を優先したい場合向き

【CPC】広告　1 クリック 40～100 円
広告がクリックされる度に料金。クリックが多かった広告が把握でき、クリックされなければターゲット層の変更や広告を作りなおすなどの改善ができる。

【引用】インスタ広告費用完全解説！料金の課金方法 4 タイプとは？運用外注の相場は？
<https://dejimachain.jp/instagram-ad-cost/>

SNS 広告を行うことにより、新聞広告やテレビコマーシャルのように大きい費用をかけずに、ターゲットを絞った広告ができ、多くの人へ知ってもらうきっかけづくりになる。

公園のリニューアル整備計画

２つ目の提案として、フィールドワークを行った際に気付いた既存施設の利用法について検討した。ターゲットであるファミリー層の来町者を増やすため、まず公園に注目した。現在、屋良城址公園のリニューアル計画が進行中であり、嘉手納町役場の都市建設課の方へ話を伺った。

屋良城跡公園のリニューアル計画概要は大型遊具の設置や駐車場の整備、親水施設の新設等があり、集客力の高い施設が整う予定であることがわかったが、飲食のスペースについてはまだ検討段階ではなく、嘉手納町として、集客を活かした、消費を促す仕組みが必要であることは把握されており、キャンプ場等の提案もあるが管理の問題が出てくるなど課題もあることがわかった。

集客力の高い公園整備

- 大型遊具の整備
- 駐車場の位置変更・駐車可能台数の拡充
- 休憩場・親水施設の新設

＋

付加価値・消費意欲を増進させる公園整備

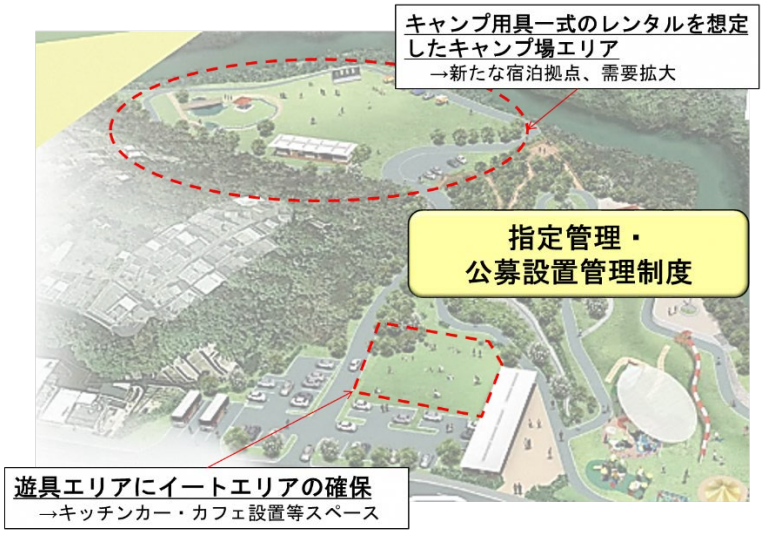
- キャンプ場の設置
- キッチンカーの設置やカフェの公募
- 防災公園としての機能を持たせる

集客力の高い公園整備に、更に付加価値をつけ、消費意欲を促す設備を入れることで、近隣公園との差別化を図り、嘉手納町でお金を落としてもらう仕組みができるのではないかと考えた。

屋良城跡公園

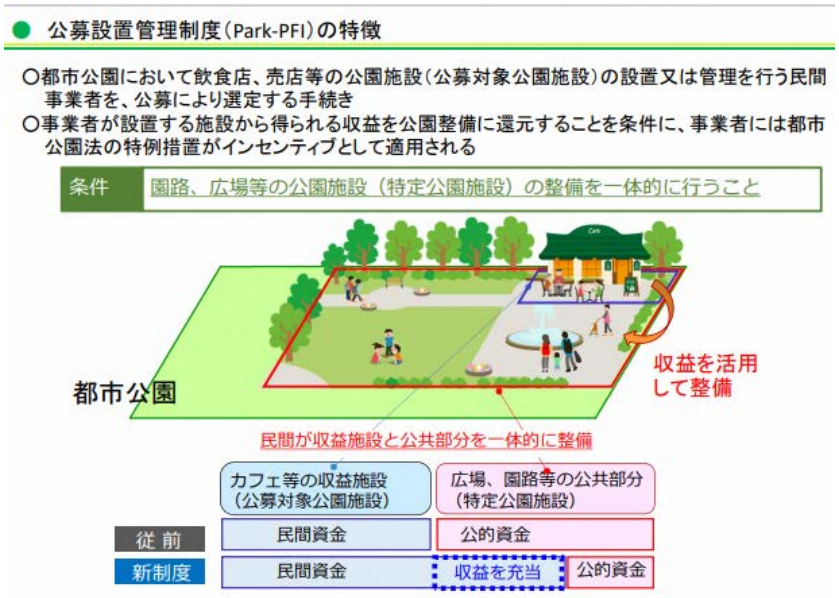
現在のリニューアル計画からまず検討したことは、川沿いの広場を手ぶらで来られる BBQ 及びキャンプ場、駐車場横には食事ができるエリアの整備である。中部の西海岸エリアには観光地や景勝地は多いが手ぶらでいけるキャンプ場は少ない。これにより、宿泊施設の少ない嘉手納町のウィークポイントをカバーすることができる。

また、キッチンカーや食事処を設置するなどイートエリアを作ることで、公園の来園者の消費も促すことが可能となる。



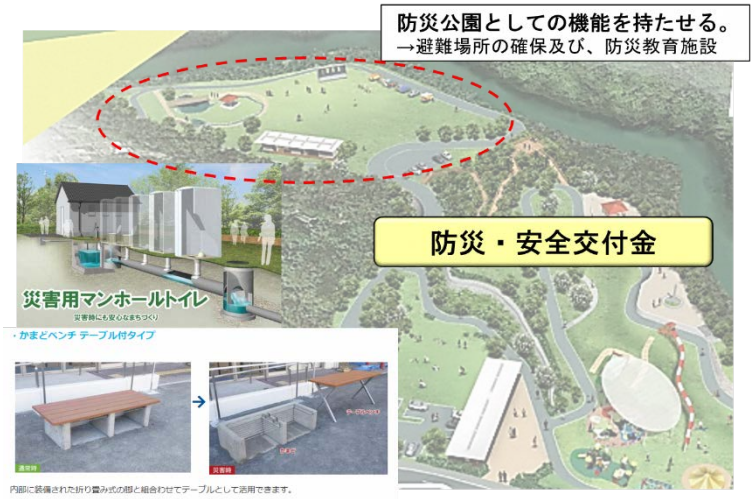
【出典】嘉手納町
<https://www.town.kadena.okinawa.jp/info/n6777.html

運営は指定管理者制度や公募設置管理制度などを使用することで、町民への良質なサービスの提供や新たな雇用の場も創出することが出来る。
その中で公募設置管理制度（Park - PFI）は公園施設の整備に収益の一部を充てることができるため、公園施設の充実化も図れる。



【出典】公募設置管理制度（Park-PFI）について-国土交通省<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanminrenkei/content/001329492.pdf>

<u>防災公園としての役割</u>



先ほど提案したキャンプ場で使用するテントなどのキャンプ用品は災害時の一時避難所など災害対策としても使用が可能であるが、合わせて災害時に使用できる設備を公園に設置することで、他の公園との差別化を図る。

具体的にはマンホールトイレやかまどベンチなどを災害用施設に整備することである。この整備は防災・安全交付金メニューがある。

【出典】信建工業株式会社<https://www.shinken-kogyo.co.jp/products/disaster_prevention_facility/%E9%98%B2%E7%81%BD%E3%81%8B%E3%81%BE%E3%81%A9%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%81/>

【出典】京都市上下水道局　<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000271866.html>

防災設備の導入によって期待できる効果

・万が一に備えられる災害に強い公園（近隣との差別化）

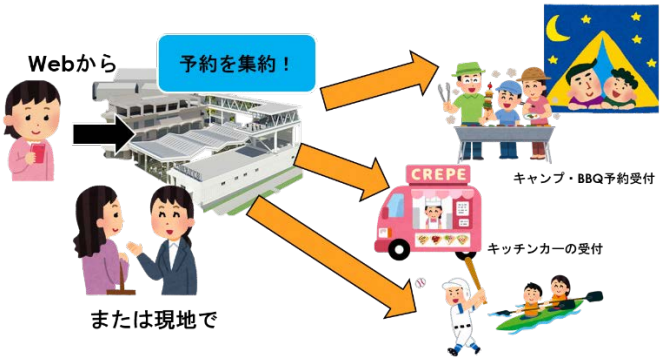
・防災教育施設としても利用できる

修学旅行や課外学習の誘致につながる！

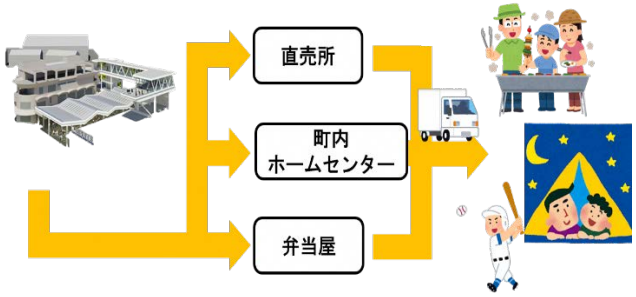
「道の駅かでな」を観光・物流の拠点に！

広報の部分でもあったように、これからさらに発展の見込める施設のため、ここを嘉手納町内の観光・物流の拠点とする案を検討した。

前述のキャンプ場や比謝川カヤックなど体験や予約の受付を道の駅かでなに集約し、看板などを設置することで、道の駅かでなの来場者を各施設での消費行動へ繋げることが期待できるのではと考えた。



また、BBQ やキャンプなどの物流拠点を担うことで町内消費を促し、町内企業との連携も図れる。そして管理を民間へ委託することで新たな雇用の拡大にもつなげることができると考えた。



道の駅を拠点とした物流：

雇用の拡大

弁当⇒町内の弁当へ団体注文

食材⇒農産物直売所から調達

材料⇒町内ホームセンターより調達

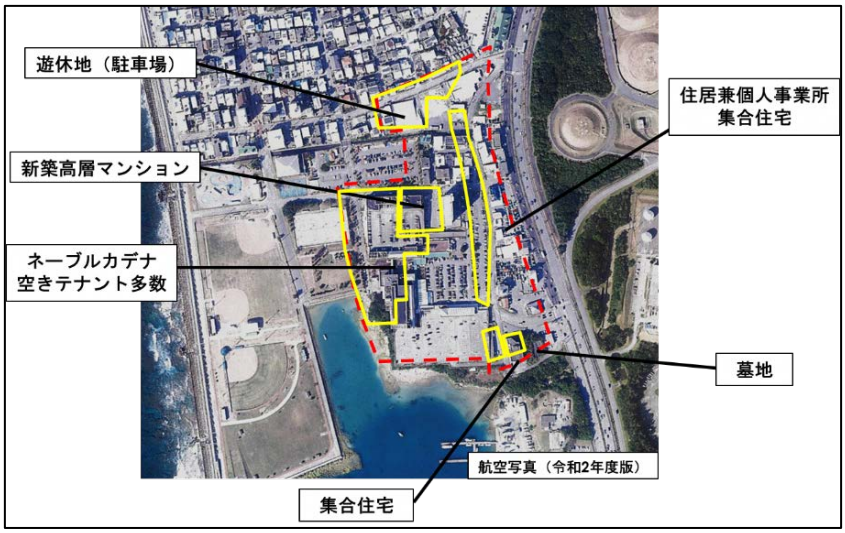
現在ある既存施設に、消費を促す仕組みの設置や付加価値をつけ、管理を民間と協力することで、町は施設や補助を提供し、民間は経営ノウハウを提供する。そして嘉手納町でしか経験できない「コト」へつなげる。

結果、町外から嘉手納町への新たな来町目的の創出ができると考える。

埋立地区の都市再生事業（現状）

今回は、埋立地区にフォーカスを当てて検討した。

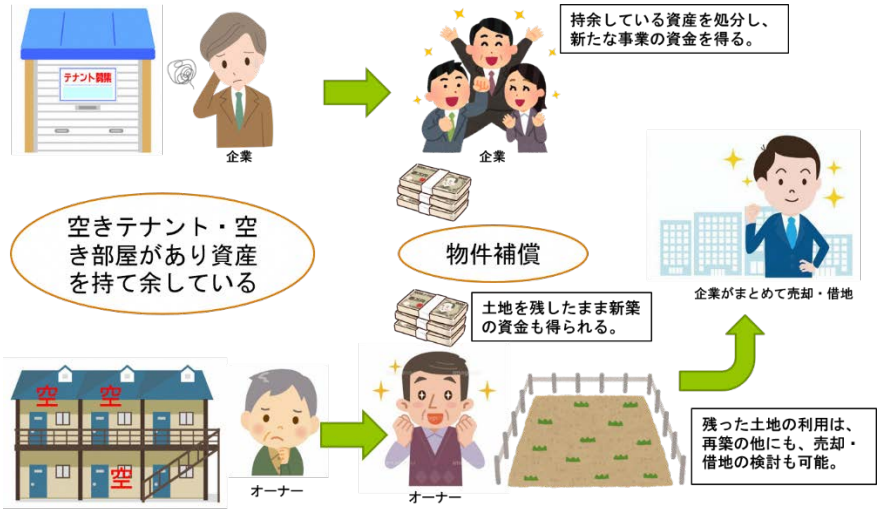
当該地区は、都市マスタープランにおいて商業エリアに位置づけされているが、企業所有の遊休地や、大型商業施設は空きテナントが多くなっているなど、資産を持て余している状況が見受けられる。また、アパートや墓地なども点在している現状にあった。



民間活力を利用した業務代行方式による土地区画整理事業

今回検討し、提案する事業は、民間活力を利用した業務代行方式による組合施行の都市再生整備計画事業である。

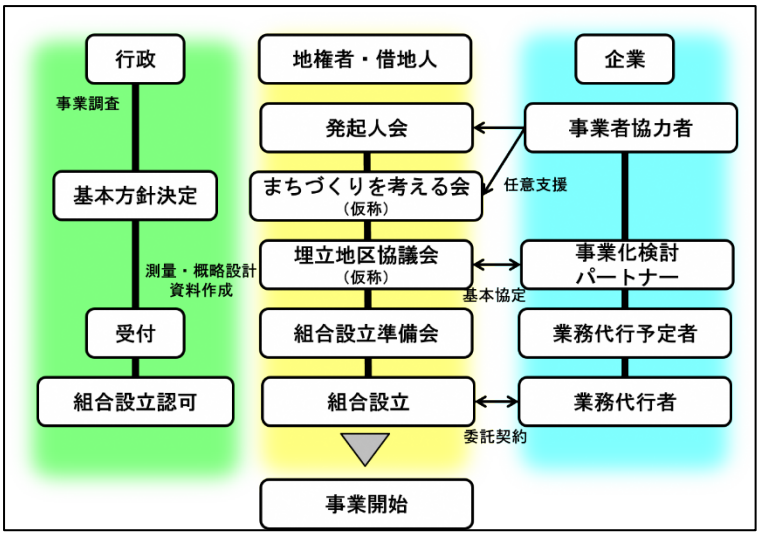
事業の概要としては、土地の再編・整備により発生する物件移転補償により持て余している資産の現金化ができることから、企業は新たな事業の資金源となり、当該事業では、物件補償されても土地は残るため、換地先で再建築しても良いし、企業へ土地を売却、若しくは賃貸の検討も可能である。



事業開始までの主な流れ

初めに、他県・他市町村で業務代行経験のある業者（ゼネコン・ディベロッパー・コンサルタント）への当該地区に都市再生整備計画の可能性の相談を行う。可能性があれば、次に対象地区の地権者及び借地人へ事業に対する意見聴取を行い、興味があると判断できれば、有権者数名と業務をマッチングさせる。

その後は、フローのように企業に支援していただきながら、事業への理解促進・機運の熟成を高めながら事業認可までの作業を進める。

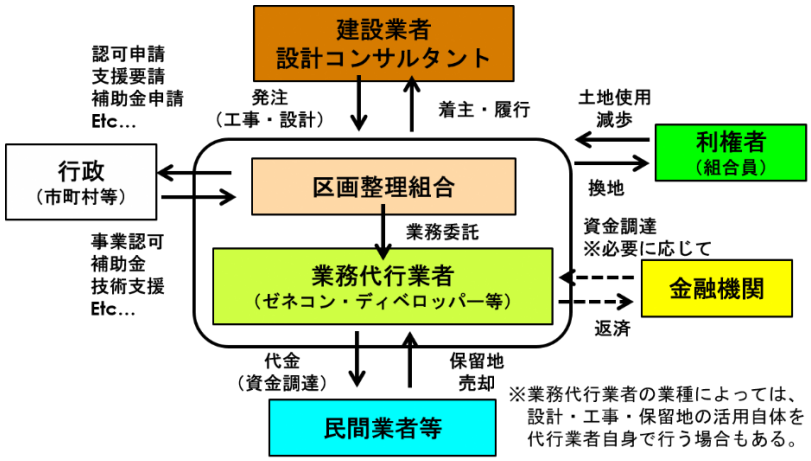


業務代行方式による事業スキーム

今回提案している業務代行方式は組合施行による事業となるため、基本的な財源は、業務委託を受けた業務代行業者が金融機関からの融資や保留地を企業へ売却し、資金調達を行い、事業を進めることになる。また、当該事業で整備する道路（公共施設）については、都市再生整備計画事業として、築造費・道路用地費の補助金（9 割）が受けることが可能である。

業務代行業者はその資金を元に、事業の設計図の作成・支障物件の物件移転補償・工事発注を行い、事業を進めていく。

業務代行方式の一番の利点としては、事業期間が圧倒的に短縮できるところにある。



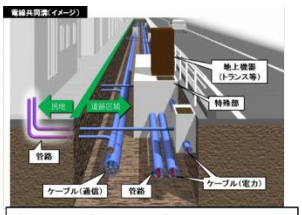
埋立地区の都市再生整備計画事業（事業案）

※航空写真は埋立地区の土地の使用用途に色分けしたものになる。

- 保留地（業務代行者用）
- 一般住宅用地（移住先）
- 高層住宅用地（残地）
- 沿道商業用地（自己用）
- 沿道商業用地（売却・借地）
- 商業用地（既設企業）
- 新設道路線形案
- 既設道路線形

街区の再編・整備を行い、地権者の意向に応じた飛び換地による土地の集約により、中心市街地としての機能を再生し、地域経済の活性化を図る。

道路部



都市再生整備計画事業に併せ、電線共同溝方式による無電柱化することで災害に強い道路整備を図る。

町道：埋立14号線

各用地について、個別に設定した。

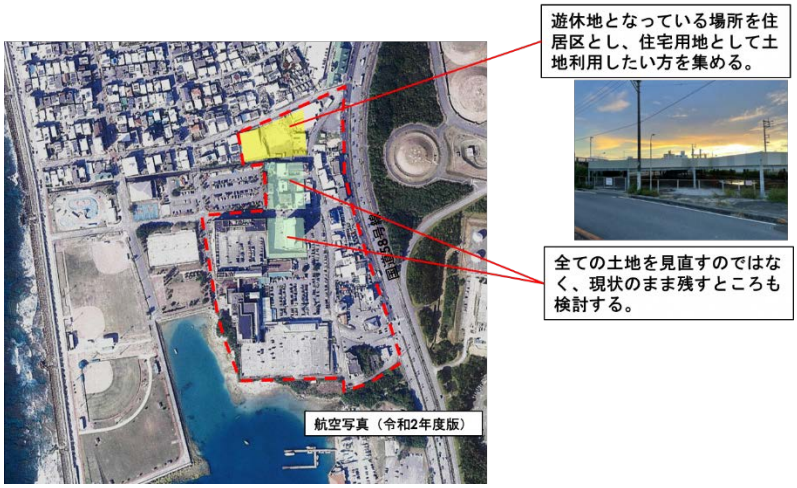
初めに、避難道路として既存道路に電線共同溝整備を行い、国が推進している国土強靭化を行う。

兼久海浜公園は、広域避難場所に設定されており、当該地区は大津波浸水想定警戒区域に設定されている為、避難道路としての整備の必要性は高いと考える。

電線共同溝の整備については、当該事業において補助の対象となるので活用することも可能である。

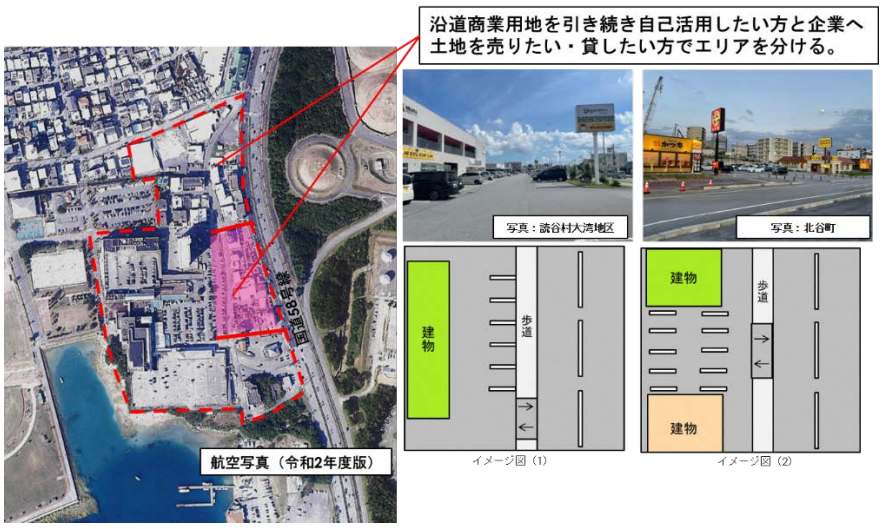
また、商業用地から公園までのシンボルロードとして景観のよい道路へ整備することで集客力も向上が図れる。

住居用地



水色の部分は事業に影響がない、若しくは物件移転補償をしてしまうと事業進捗に大きな影響が出る部分については、現状のまま残す。
そして、従前地において住居兼自営業をしている方、若しくは賃貸アパートの経営をしている方を中心に意見聴取し、住居として土地活用したい地権者は住居用地へ換地する。

沿道商業用地



このエリアは、商業として引き続き自己活用したい方と、企業へ土地を売却・賃貸したい方を住み分けする。
さらに、沿道商業用地は、国道 58 号線沿いからの交通車両が多いことから、より多くの車両が来店し易いような建物の配置を検討することが重要と考える。
国道沿いに駐車スペースを多く設ける他、共同の駐車スペースを設けることで集客力の高い街にすることができると考えた。

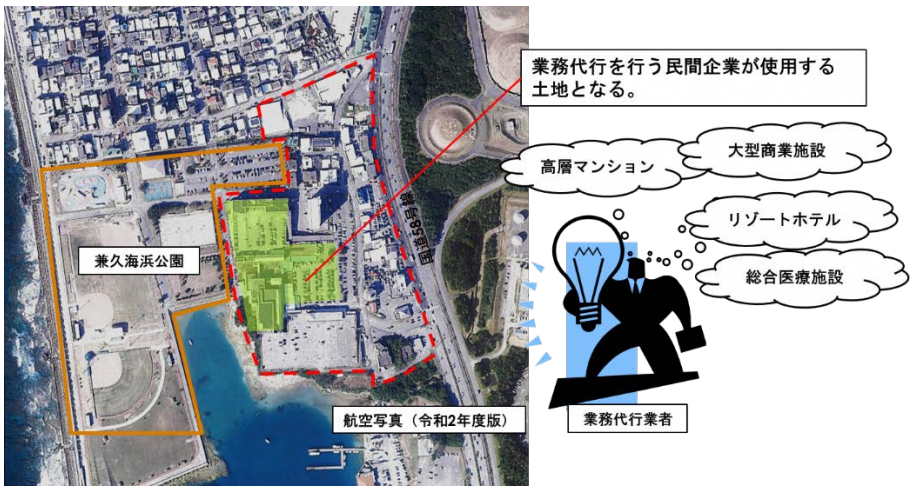
商業用地（既設企業）

商業用地は既設企業の為の用地とする。

また、大型商業施設の管理会社自身の事業部は残す。

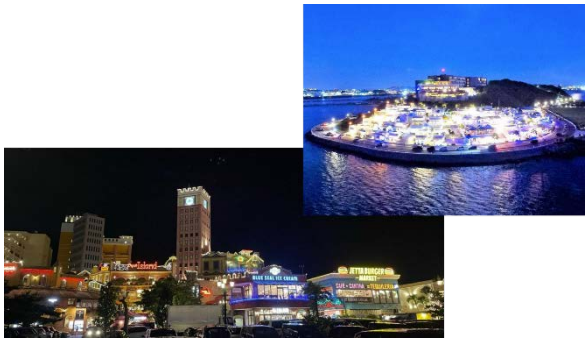
このように、企業が持て余している土地・建築物を物件補償し、解体・撤去することでスクラップアンドビルドすることが見込める。さらに、維持管理費及び税金対策等も可能と考える。

商業用地（保留地）



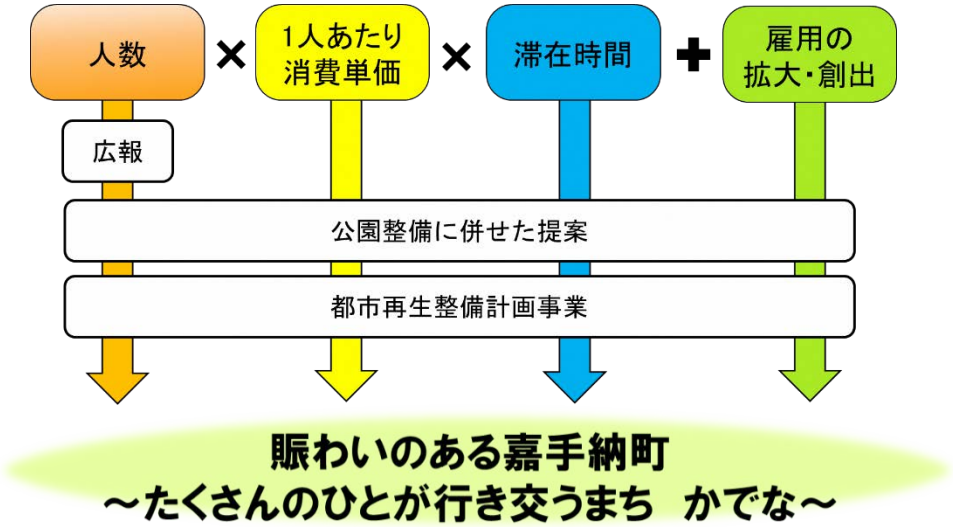
保留地は業務代行業者が使用する土地となる。
業務代行業者自身が自己活用するパターンもあるが、事業資金の調達のために大手企業へ売却することもある。
当該研修での発表は、「観光業の進行による地域経済の活性化」としていることから、商業用地と位置づけている。このようにする為には事業化前の段階で業務代行予定者との協議を十分に行うことが重要となる。
大型商業施設の他にも高層マンション・住宅街・総合医療施設・リゾートホテル等、需要はあると思われるため、嘉手納町の中心都市として必要な施設を検討することも重要である。

埋立地区の将来像



当該事業において、開発経験の豊かな民間業者が施工することで、経営戦略の取れた観光業に強いまちづくりを図ることが可能となる。

５．まとめ



研修の当初、嘉手納町は観光のイメージは薄かったが、フィールドワークを行うことで嘉手納町には良いスポットがたくさんあることを彩発見した。また、ゆがふう塾の研修の間にも、観光の色々な取り組みが始まっており、観光については伸びしろしかないと感じた。だからこそ今あるものにプラスαを考えた提案にしようとグループ内で話し合い、当該研修の提案を検討した。
「広報をさらに強化すること」で人数が増え、「屋良城址公園の公園整備にあわせた提案」「都市再生整備計画事業」を行うことで、「人数」×「１人あたりの消費単価」×「滞在時間」＋雇用の拡大・創出を増やすことができ、理想とする～たくさんのひとが行き交うまち　かでな～になると考える。

６.最終報告会における質疑への回答

Q1	観光のターゲットを子育て世代（ファミリー層）に設定した理由はありますか。
A	嘉手納町の人口減少を考えた際、一番嘉手納町に来てほしい世代が子育て世代だったからです。理由としては、子育て世代であれば、将来的に出産すると、人口も増えますし、未婚者に比べ、転出率も低いと考えたので、子育て世代をターゲットにしました。
Q2	都市再生事業について減歩率や具体的な工期はありますでしょうか。
A	各筆毎で減歩率は異なるため、具体的な数値は示せませんが、業務代行方式の場合は行政施行よりも減歩率は高くなる傾向にあります。また、工期については、身近でアワセ土地区画整理事業がありますが、施行期間は７年となっております。
Q3	屋良城址にファミリーに向けたキャンプとあるが、地域の経済効果および波及効果を教えていただきたい。
A	キャンプに必要な食材や資材を町内で購入、提供出来れば、地元の利益になり、地域経済の活性化に繋がると考えます。また、キャンプ場の需要が高まれば、その分嘉手納町での滞在期間が伸びますし、さらにリピートして頂けることで、嘉手納町の他の魅力も知ってもらう機会が増えます。それにより、キャンプ場以外の場所へ訪れてもらうことが波及効果として見込んでいます。
Q4	道の駅は修学旅行生が多く来ているが、少ないとした理由は。年間５５万人（コロナ前）
A	道の駅かでなは、魅力があり、さらに集客が見込めると発表しましたが、少ないとは考えておりません。（県外からの嘉手納町への観光客数は他の市町村と比べて少ないとは発表しましたが道の駅に限定しておりません。）表現により、勘違いをさせてしまい申し訳ございませんでした
Q5	業務代行方式で該当する県内業者の割合ってどのくらいですか？ 県内業者（下請・孫請）がしっかりもうけるための育成についてどう考えていますか？
A	県内コンサルタント全体数を把握しておりませんので、お答え出来ませんが、複数社は確認出来ております。業務代行者が工事発注を行うため、基本は選定出来ないと思われますが、事業開始前にそのような相談はしても良いと考えます。

Q6	賑やかなまちの創出と施策の関連についてもう少し説明をお願いします。
A	今回の研修において「人数×消費単価×滞在時間」の増加を「賑わいあるまち」定義としております。この条件をクリア出来る施策を検討した結果が、 ・広告力のアップによる今ある嘉手納町の魅力の拡散 ・既存の観光資源のリニューアル（「公園施設の新たな利用案の提案」、「商業エリアの再計画」）による新たな嘉手納町の魅力アップとなっております。
Q7	「人数×１人あたりの消費単価×滞在時間」における現在の状況（数値？）があれば教えてください。また、今回の提案における目標数値があれば教えていただきたいです。
A	第２次嘉手納町観光振興基本計画（平成 30 年 3 月）で、滞在時間についての記載はありませんでしたが、人数と消費単価の現状と目標が記載されており、その目標に近づければと考えます。滞在時間につきましては、通り道にならないようにしたいと考えましたが具体的な目標数値は定めていないです。 現状【人数　５６万人/年】×【消費単価４９２円】 目標【人数　１００万人/年】×【消費単価２５００円】　※２０２４年度
Q8	集客ターゲットをファミリー層中心に検討していますが、外国客の集客・アピールについての議論はありましたか。
A	議論にはなりませんでした。まずは、県内や国内から来てもらう方法を考えました。
Q9	県外の基地をかかえる自治体の現状や課題、参考となる事例についての調査は行いましたか。
A	県外の基地をかかえる自治体の現状や課題についてまでは調査は行っていません。しかし、埼玉県のジョンソンタウンは面白いまちだということで調べましたが、嘉手納町で考えたときに外人住宅が少なく、道幅も狭いなど、現実的ではないと考えました。

Ⅱグループテーマ
学び続けるまちかでな

生涯学習で産業の活性化は可能か

チームガリレオ

嘉手納町	総務課	濱元　勇子
うるま市	水道総務課	比嘉　健人
宜野湾市	税務課	平良　拓真
西 原 町	文化課	上里　幸
北中城村	生涯学習課	金城　徹
読 谷 村	商工観光課	大城　愛士

1 テーマ設定の経緯、背景

現在の社会情勢を調べている中で、私たちグループは教育に着目しました。社会の変化が激しくなる今後の時代において、近年の少子高齢化による人口減少、AI や IOT 等の技術革新、グローバル化の進展など、社会状況が大きく変化していくなか、国民一人一人が生涯にわたり学びつづけることによって、社会の変化に対応していく事が必要です。また、「社会情勢の変化の観点からも、家庭教育、学校教育、社会教育、企業内教育、その他活動等、様々な場や機会において、学びを重ね、新たな知識や技能を身に付ける事がより一層重要。」と文部科学省令和２年度文部科学白書で述べられていました。

また、嘉手納町第５次総合計画（以下「総合計画」という。）では、「これからのまちづくりにおいては、人口減少や少子高齢化、グローバル化していく社会に対応し、町民が互いに協働しながら、健康で安全に暮らしていける住みやすいまちづくりを目指すことが必要であり、町民一人一人が幅広い知識や技術、教養を身に付け地域や産業が活力に満ちた賑わいのあるまちづくりを目指していくことが重要である。」と記載がありました。

また、総合計画の基本構想の中で【教育・文化】については「生涯学習の推進」として、「町民誰もが生涯学習の機会を得ることができる社会の実現に向けて取り組むこと。」

【産業】については「商工業の振興」として「商工会と連携し持続可能で魅力のある商業、賑わいのある商店街の創出を目指し取り組んでいく。」と記載がありました。

図１：総合計画における生涯学習と商工業の振興についての位置付

（嘉手納町第５次総合計画ダイジェスト版 p2,p5,p8 より抜粋・編集）

令和 4 年度嘉手納町施政方針では７つの重点施策が挙げられており、これらの施策と SDＧｓについての関連性を考察した結果、図２のような結果となりました。

その中で「教育・福祉の向上」と「地域産業・商店街の活性化」については、他の施策よりも多くの SDGｓとの関連があり、この２つの施策に注力することで、施政方針にある他の施策にも好影響があるとともに、地域の発展のみならず国際目標も同時に達成できると考えました。

図２：令和４年度嘉手納町施政方針 SDGｓとの関連性についての考察結果

以上を踏まえ、嘉手納町の目指すべき姿として「**子供から大人まで学び続けるまち、学びから産業が活発になるまち**」を理想として考えました。

2　現状の分析と課題の抽出

(1) 教育・福祉の向上について

次に嘉手納町における現状の分析と課題の抽出を行いました。

嘉手納町における教育・福祉の現状として、中央公民館にて開催している各種講座、嘉手納町外語塾、保育士対策講座や関係各課で実施している各種事業があります。また、嘉手納町商工会が開催する「かでなまちゼミ」は、町内の各店舗の方が講師となり、専門知識等が学べる少人数制のミニ講座を無料で実施しています。これら各種事業の周知については、嘉手納町広報誌や HP、LINE、データ放送、FM ラジオ等、様々な手段で周知されています。

一方で、中央公民館では各種講座を多数開催していますが、講座内容については、趣味や生きがいづくりといった内容の講座が多く、地域商店街の活性化につながる講座や職業に生かせる知識・技能習得のための講座が少ない印象

です。また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、講座数及び講座受講者数が減少していました。コロナ禍前の令和元年度からみても、生涯学習講座の受講者数は町民の約１０％に留まっています。

課題として、地域商店街の活性化につながる講座内容の充実や講座のオンライン化等、いつでもどこでも誰でも受講しやすい環境の整備を行い、町民の生涯学習の推進を図る必要があると考えます。

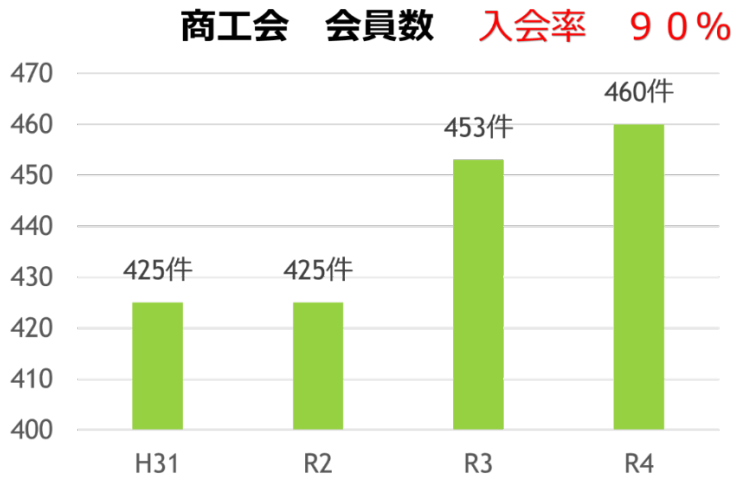
表１：嘉手納中央公民館講座実績一覧（H29 年度-令和 2 年度）

	H２９	H３０	R１	R２
講座参加人数	1,311	1,233	1,572	864
講座種類	24	31	34	17
開催回数	114	115	113	90
講座内容	民族舞踊 アドラー心理学 気質額 ABCから始める英会話 紅型 デッサンから始める水墨画 大正琴 初めてのスマホ ソープフラワーアレンジ パン作り 七田式脳トレ 終活（人生の総括） 夢を仕留める為の手帳活用術 マジシャン翔斗のマジック教室 中医学健康 ポスチェアウォーキング ベリーダンス ボイストレーニング 男飯健康 顔ヨガ チベット体操 親子片付け チョークアート ペーパークイリング	育児に役立つ心理学 琉球紅型教室 皮・革製品 気質学・コーチング スクラップブッキング 世界文化を知る世界一周の旅 カラー講座 お洗濯教室 初めてのスマホ ドローン 頭皮マッサージ 野菜ソムリエから学ぶ ボイトレ 化粧でごまかさない美肌教室 頭の使い方が分かるマインド 子どもマジック 親子タイピング アドラー心理学 片付け方法を学ぶ 男料理 キャラ弁 夢を叶える仕組み バウンドテニス（昼・夜） 中医学 キネシオロジー その他・・・	自分で作る家系図 金継ぎ マネー講座 1から始める韓国語 初心者タブレット入門 プロジェクションマッピング YouTubeから学ぼう モバイル達人スマホ活用法 パーソナルカラー 沖縄ヒヌカン・仏壇事 ギムニクボール 中医学 本物そっくりな動物を作ろう ﾎﾞｹとﾂｯｺﾐから学ぶｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ法 スマホで本格的な絵を描こう！ ダンスエクササイズ キネシオロジー 親子でドローン 嘉手納町歴史地図づくり 色彩心理(骨格診断) 色彩心理(カラーメンタリング) 嘉手納町の歴史 初心者スマホ入門 楽しい連続体験教室 料理一年生 その他・・・	音読＆楽活 結書 初心者向け中国語 メイクアップ 気質学 発酵調味料＆島野菜料理 ストレスケア 真美健康体操 中医学 家系図と年中行事 きり絵 アドラー心理学 デコ巻き寿司 自然栽培 マヤ歴 アウトドア ワンボイス

地域産業の活性化について考えた結果、私たちは、<u>産業を「商店街」、活性化を「人が集まり消費行動が盛んになる状態」として定義付け</u>をし、嘉手納町の商店街等の現状の把握、課題抽出のため、嘉手納町産業環境課職員や商工会へのヒアリング、商店街へのアンケートを実施しました。

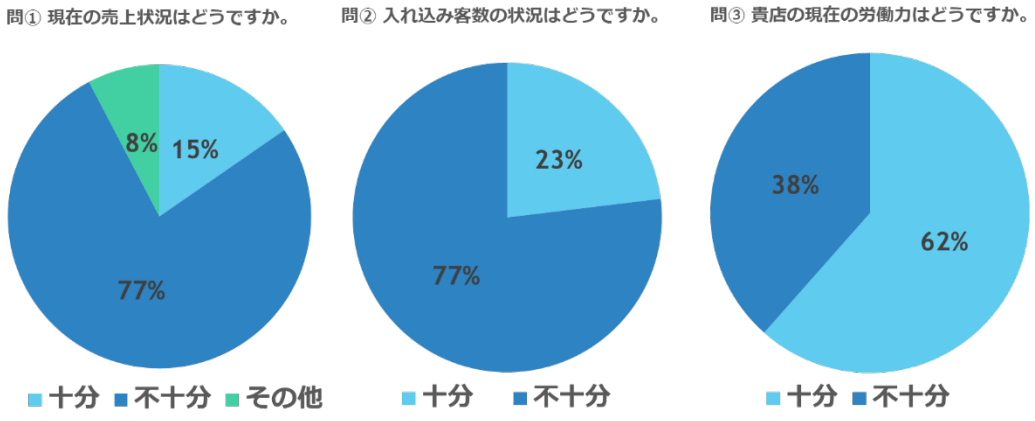
嘉手納町商工会の会員数については、平成３１年から増加傾向であり入会率は約 90%となっています。理由としては「嘉手納元気プロジェクト」と銘打った、開業支援や情報発信、経営に関わるインボイス制度や確定申告などの セミナーや相談窓口も実施しており、充実した支援が行われていることが考えられます。また、補助金交付や事業に関する提案・情報提供など、行政との連携もできており、関係も良好ということが商工会、産業環境課双方へのヒアリングからも聞き取ることが出来ました。

図３：嘉手納町商工会への店舗加入率の推移



支援が充実している一方で、商店街店舗へのアンケートでは来客数が十分ではないという回答も多くありました。新型コロナウイルス感染症の影響も大いにあるようですが、 商工会及び産業環境課へのヒアリングでは「新町にぎわい隊」という有志があるものの商工会員の高齢化、通り会 の活動がみられなくなったことなど商店街全体としての賑わいを創出する活動力が低下しているようにも感じました。地元出身商工会職員も昔はもっと賑わっていたことを口にしていました。来客数の減少に伴い、売上は十分ではないとの回答も多くあり、経済的な満足度は低いことが問題として挙げられます。 問題を解決するためには商店街の賑わい創出を図り、新規顧客及びリピーターを獲得し、集客数を向上させることが課題と考えます。

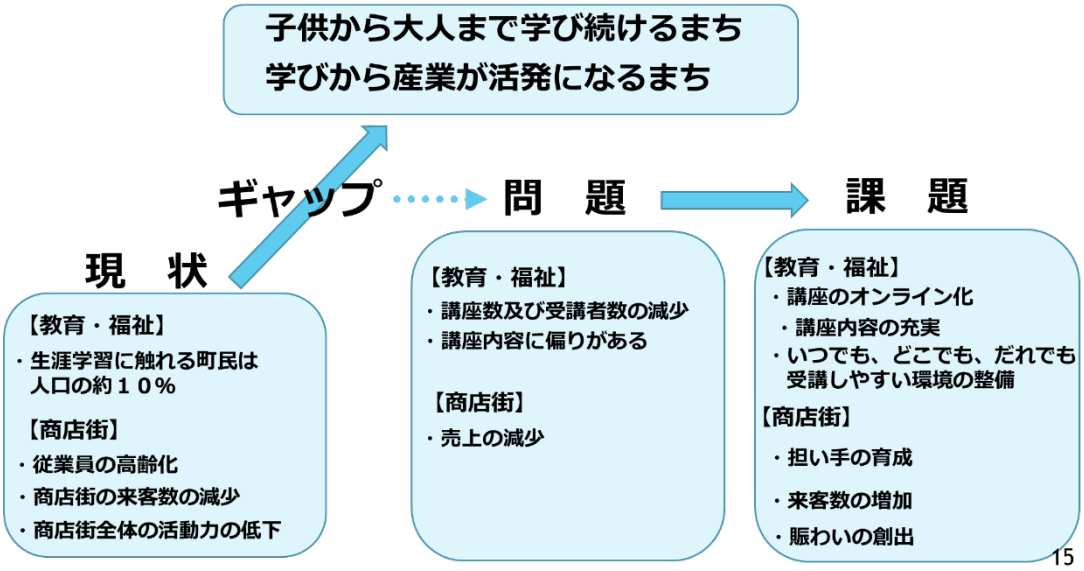
図４　新町通り店舗への経営に関するアンケート結果（N＝13）



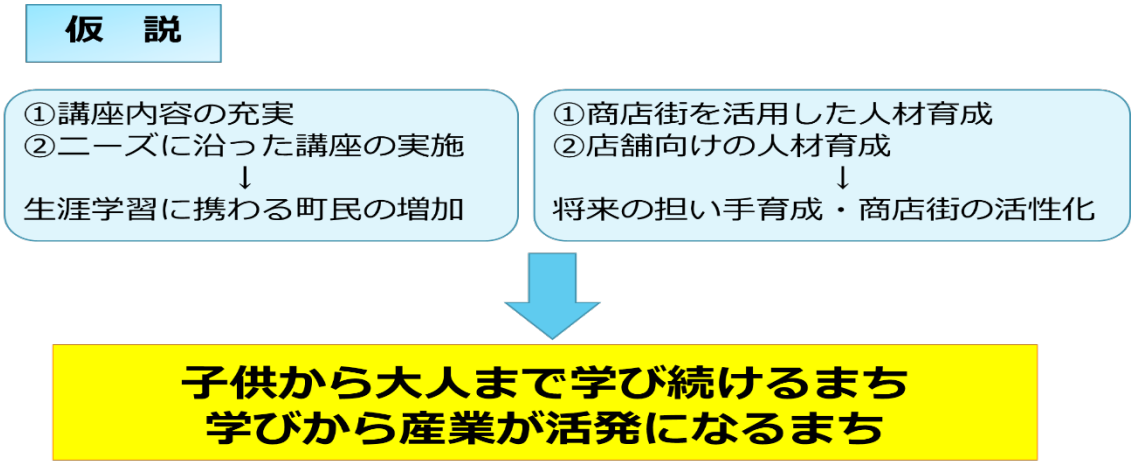
【アンケート設問】
問1　貴店の現在の売上状況はどうですか（選択肢：十分である/不十分である/その他（　）※理由記入欄あり）
問2 貴店の現在の入れ込み客数の現状はどうですか（選択肢：十分である/不十分である/その他（　　）※理由記入欄あり）
問3 貴店の現在の労働力はどうですか（選択肢：十分である/不十分である/その他（　　）※理由記入欄あり）

以上のことを整理すると、嘉手納町の現状として【教育・福祉】については、生涯学習に触れる町民は人口の約１０％で、問題は講座数及び受講者数の減少、課題は各種講座のオンライン化と内容の充実、そして、いつでも、どこでも、だれでも受講しやすい環境整備があげられます。
【商店街】の現状としては、従業員の高齢化、来客数の減少、活動力の低下で、問題は各店舗の売上の減少、課題は担い手の育成、来客数の増加と、商店街の賑わいの創出があげられます。

図５：嘉手納町の現状と理想・問題・課題についての相関図



以上のことから、講座内容の充実や住民ニーズに沿った各種講座等を実施することにより、生涯学習に携わる町民の増加を図るとともに、商店街を活用した人材育成事業及び店舗向けの人材育成を行うことで将来の担い手育成・商店街の活性化につながり、嘉手納町における子どもから大人まで学び続けるまち、学びから産業が活発になるまちが実現可能ではないかと仮説を立てました。



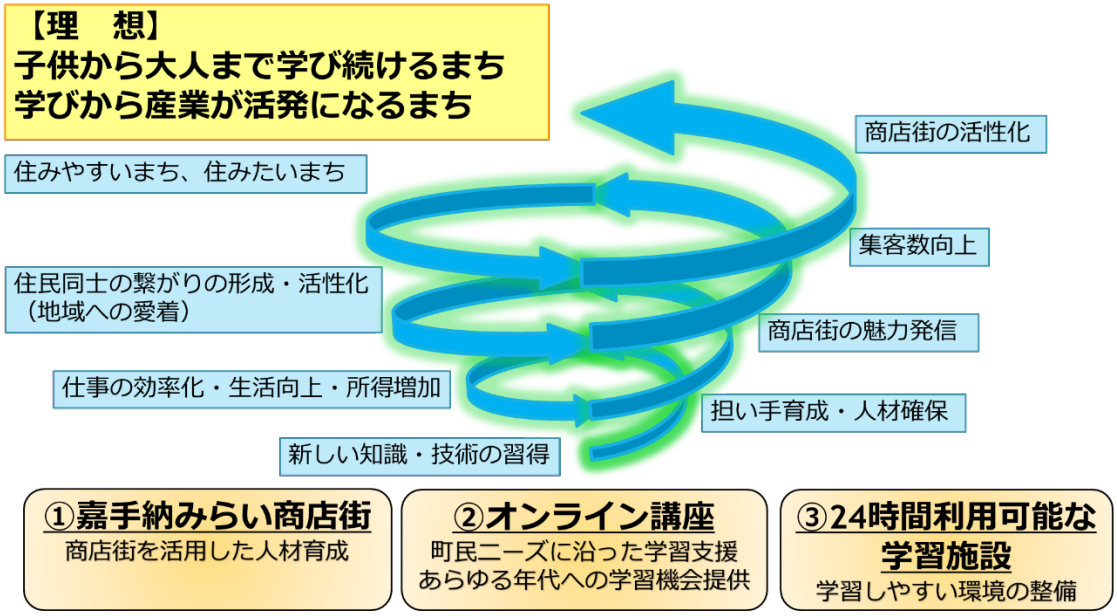
３　施策提案

課題の解決のために、私たちチームガリレオが考える３つの施策提案は以下の３つです。

<u>施策提案①　嘉手納みらい商店街</u>
<u>施策提案②　オンライン講座</u>
<u>施策提案③　24 時間利用可能な学習施設</u>

３つの施策を実施することで、生涯学習に携わる町民が増加し、新しい知識・技術の習得から仕事の効率化・生活向上・所得増加、更には住民同士の繋がりの形成・活性化により地域への愛着を育み、住みやすいまち、住みたいまちへとつなげます。また、産業も、担い手育成・人材確保・商店街の魅力発信により集客数が向上し、商店街の活性化へとつなげ、理想とする「子供から大人まで学び続けるまち、学びから産業が活発になるまち」の実現を図ります。

図６：施策と理想像とのイメージ図



(1) 施策提案①嘉手納みらい商店街

嘉手納みらい商店街とは簡単に説明しますと、新町通りで行うキッザニアです。

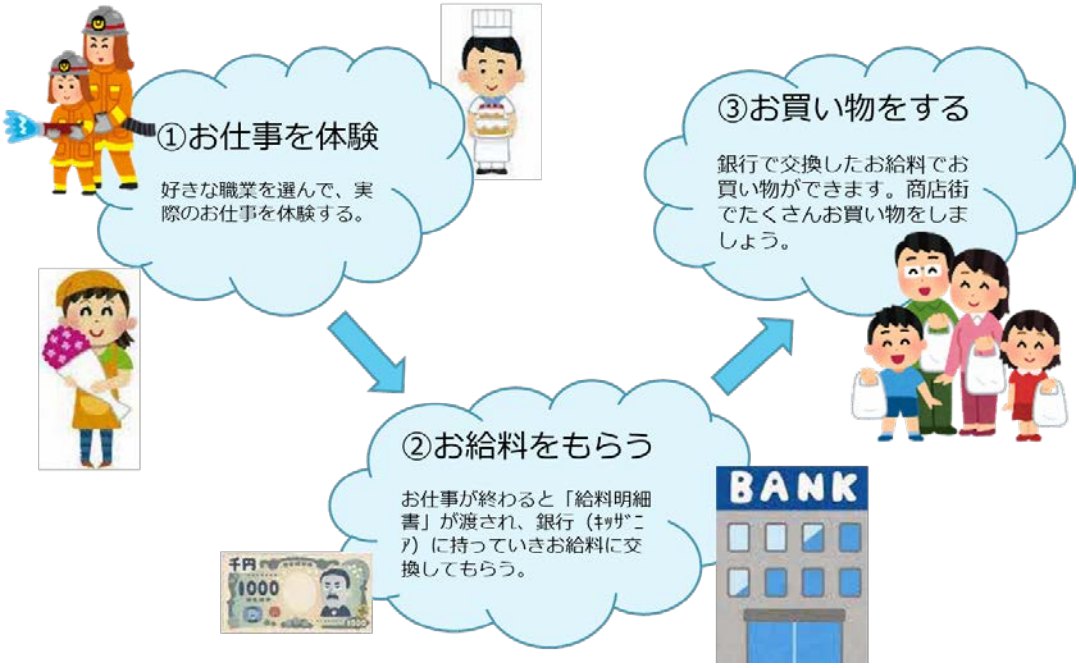
高知市の大橋通り商店街では、わくわくワークるんだ商店街という事業を実施しています。この事業は小学４・５・６年生を対象に商店街の職業（仕事）を体験してもらい、買い物だけではない商店街の魅力を体感してもらうことによって、親子で訪れる場としての商店街の存在感を高めることと、商店街が従来担ってきた教育機関としての働きを取り戻し、子供の健全育成の場という機能の再構築のきっかけにすることを目的としています。

わくわくワークるんだ商店街の仕組みと流れは以下のとおりです。

①好きな職業を選んで、実際のお仕事を体験する。

②お仕事が終わると「給料明細書」が渡され、わくわくワークるんだ商店街の銀行に持っていき、お給料に交換してもらう。
③銀行で交換したお給料でお買い物をする。

図７：高知県高知市大橋通商店街「わくわくワークるんだ商店街」実施イメージ図



参　考：大橋通り商店街振興組合 第 14 回わくわくワークるんだ商店街〈www.kochikc.co.jp/ohashidori/2019runda/introduction.html〉
閲覧日：2022/08/29

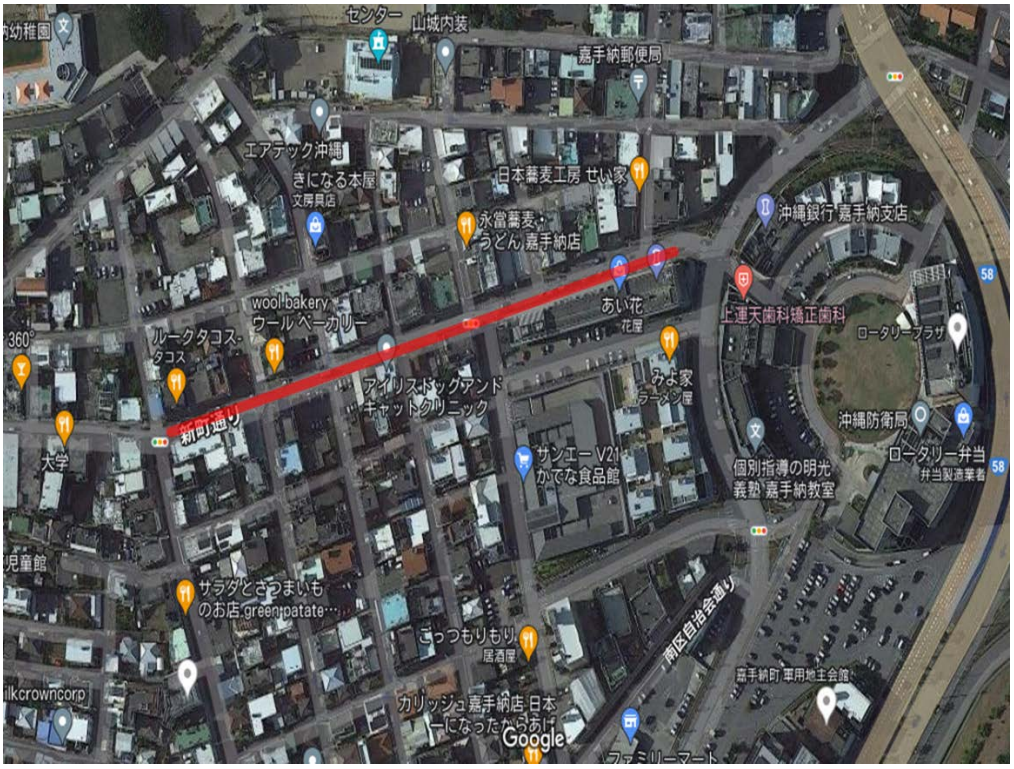
嘉手納みらい商店街は新町通りにて行います。新町通りは、約１キロ圏内に様々な職種の店舗が点在しており、嘉手納みらい商店街を行うには好条件となっております。

また、道路を歩行者天国にすることで、簡易的なテントも設置でき、新町通りに店舗を持っていない業者の参加も見込めます。その中で観光協会、外語塾と協力し嘉手納町の魅力を伝えるガイドなどを職業体験に織り込むこともでき、嘉手納町の魅力を効果的にＰＲすることも可能となります。

歩行者天国に伴う交通規制については、エイサーまつりなどの前例があり、関係機関と協議・連携することで実施可能ではないかと考えました。

また、新町通りの店舗には、嘉手納町の優良特産品に選ばれている商品も多数あるため、嘉手納町の魅力を広めるうえでも、新町通りは開催場所として優れていると考えます。

図８：嘉手納みらい商店街（職業体験事業）の実施場所の地図



事業詳細については、参加費は無料で、対象者は小学 5 年生～中学 2 年生とし、町内 8 割、町外 2 割を想定しています。町民のみならず、町外からの参加者を取り入れることで、店舗 PR 及び集客数向上にもつながると考えます。

開催数は、年 1 回で時期は、屋外であることを考慮し 10 月または 11 月とします。

HP・広報誌・町内小中学校へのチラシ配布などにより周知を行います。

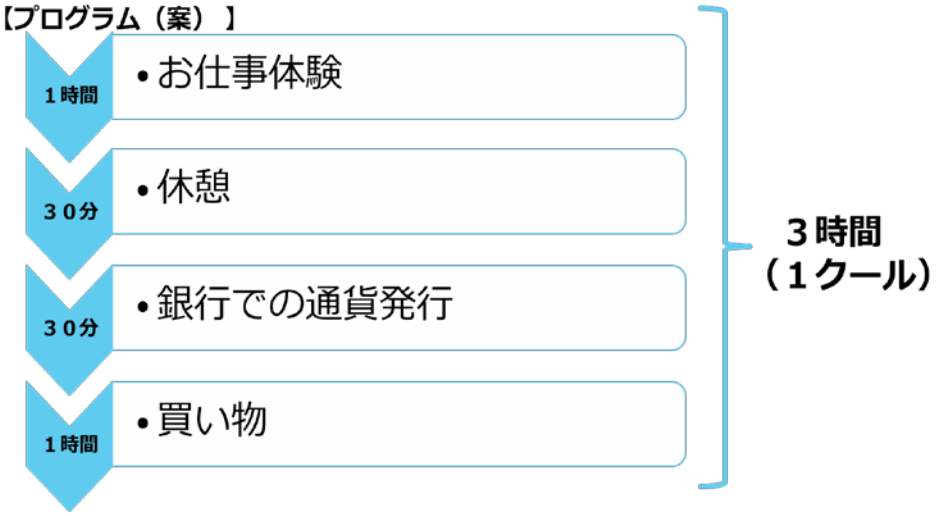
参加者数は、各店舗×1 名～3 名想定しています。独自通貨（お給料）に関しては、小学生 500 円、中学生 1,000 円とします。

図９：嘉手納みらい商店街事業詳細

事業詳細	
参加費	無料
対　象	小学５・６年生、中学１・２年生(町内８割、町外２割)
開催数	年１回（１０月または１１月）
周知方法	HP・広報誌・町内小中学校へのチラシ配布など
参加者数	各店舗×１名～３名
独自通貨 ※野国総管商品券	小学生５00円分　中学生１,000円分

具体的なプログラムは、お仕事体験を１時間、休憩３０分、銀行での通貨発行が３０分、お買い物の時間が１時間の計３時間を１クールとし、午前・午後の２クールで開催します。

図 10：嘉手納みらい商店街プログラム案



以上の施策を商工会と連携し実行することで、町内の商店街において、子ども達に様々な業種の職業を体験させ、働くことに対する価値観やお金に関する知識を養い、また、実際に商店街の人達から指導してもらうことで、専門的知識、技術を学び、自己のキャリア形成に役立てるとともに、地域の人達との交流や異世代とのコミュニケーションを通して、地域コミュニティーの形成につなげます。更に町外の方に嘉手納町を PR する効果も見込まれます。

また、働いた対価として、独自通貨を支給し、町内の商店街で利用することで町内商店街の経済活動の活性化を図るとともに、各店舗の周知を行い、人材育成をとおした商店街の活性化に寄与します。

(2) オンライン講座

各種講座や教室をオンラインでも開催することで、自宅からでも講座が受講可能となり、育児や介護等で外出が難しい町民の学習機会の創出を図ります。

また、各種講座等をビデオ録画し町 HP でオンデマンド配信することで、時間帯や曜日にとらわれる事なく講座受講ができ、また、毎年同様の講座を行う必要が無くなることで、新規講座の開催や、学習レベルに合わせた段階的な講座開催につながり、講座内容の充実が図られ、講座の受講者数の増加が見込まれます。

なお、かでなまちゼミをオンライン講座等で実施することで、町内外への商店街の周知にもつながり、店舗の集客数向上が見込まれます。

オンライン講座の事例として、大阪府では令和 3 年度より商店街等モデル普及セミナーとして地域商業の活性化に関する先進事例の共有や成果の普及を目的にオンラインでセミナーを開催しています。また、民間企業の WEB セ

ミナーですが、ジャイロ総合コンサルティングではチラシ作成セミナーをZOOMで行っている事例もありました。更に、北中城村や那覇市ではYouTube で様々な講座が無料で随時みられるようにしています。各講座の概要等は以下のとおりです。

商店街の活性化に資する、オンライン講座の具体的な実施方法として、まず、店舗の経営者等を対象とした店舗運営に役立つ講座を、従来の対面形式とZOOM 等によるオンライン講座により、開催します。対面式の講座は、町内外から応募可能としますが、町内店舗については 1 週間程度の先行受付期間を設けます。その講座の様子を動画撮影し、インターネットで配信することで、いつでもどこでも視聴可能な講座とします

図 11：オンラインによる店舗の経営者等向け講座の概要

店舗の経営者等向け講座	
講師	商店街や店舗の運営等に精通した講師（民間団体、県内商工会と連携し講師選定）
概要	収益力アップや来店客増加のための講座
受講方法	ZOOM等のオンライン・オンデマンド（オンライン講座の模様は録画し、録画動画の視聴を可能にする。動画の最初・途中に嘉手納町のPR動画が入る）
必要な環境	インターネット環境、PC等の端末
募集方法	町内外から受講者を募集（町内店舗の先行受付期間を1週間程度設ける）
特色	オンライン講座は遠隔で開催可能なことから、様々な講師による講座が可能。また、録画動画は誰でもいつでもインターネットで視聴可能。町は商工会を通じて受講に係る費用などを支援。

また、商工会が開催している町内の各店舗の方が講師を務める、少人数制のミニ講座である「かでなまちゼミ」の様子をオンラインやオンデマンドで配信します。これにより、町内店舗の専門的スキルや知識を自宅からでも学習することができ、更にオンライン開催により受講者数の増加が見込まれるとともに、店舗の周知が図られ、集客数向上に寄与します。

図 12：かでなまちゼミのオンライン・オンデマンド配信の概要

かでなまちゼミのオンライン・オンデマンド配信	
講師	町内店舗
概要	町内店舗のスキルを紹介（動画の最初・途中に嘉手納町のPR動画が入る）
受講方法	オンライン・オンデマンド
必要な環境	インターネット環境、PC等の端末
募集方法	いつでもインターネットで視聴可能
特色	町内店舗のスキル動画を発信することで、店舗周知が図られ、集客数向上に寄与する。町は商工会への補助金交付により動画制作費用等を支援し、町民の学習機会の創出を図る。

(3) 24 時間利用可能な学習施設の整備

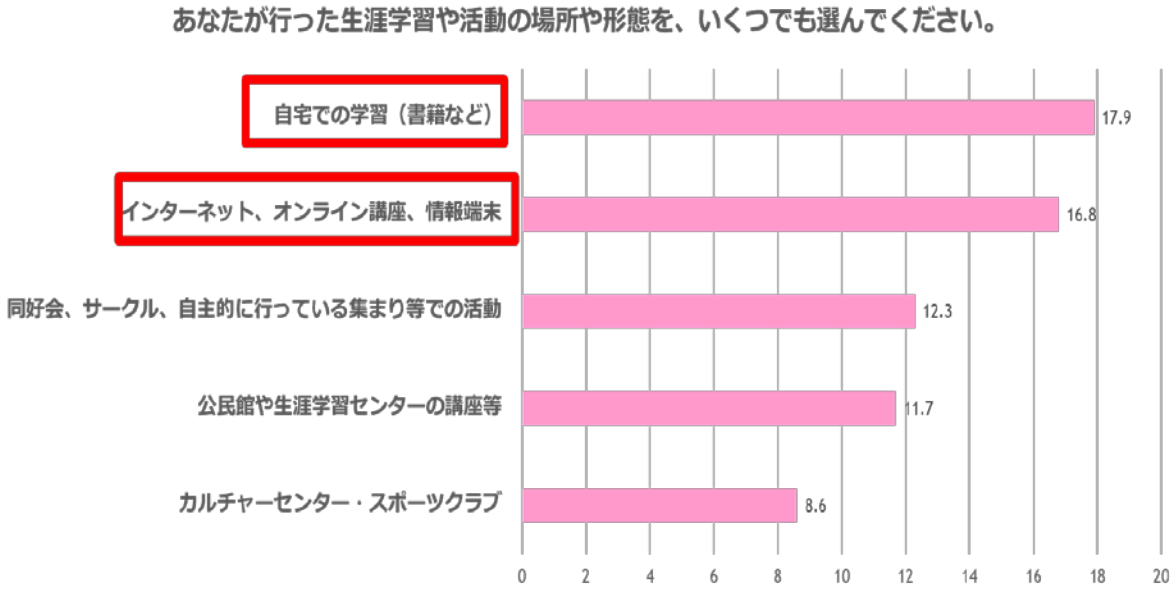
沖縄県において、令和２年１２月に２０歳以上の県民（2,000 人）を対象に「生涯学習に関する県民意識調査」を実施した結果、過去１年間、学習活動のために利用した施設ならびに学習形態として、「自宅での学習（書籍など）」17.9%、「インターネット、オンライン講座、情報端末」16.8%といった結果となっています。

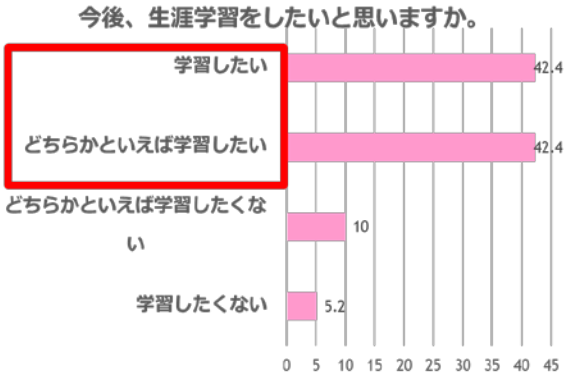
調査結果は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあることから、特に施設を利用した学習活動よりも、自宅での学習やインターネットを活用した学習活動が上位２項目となっております。

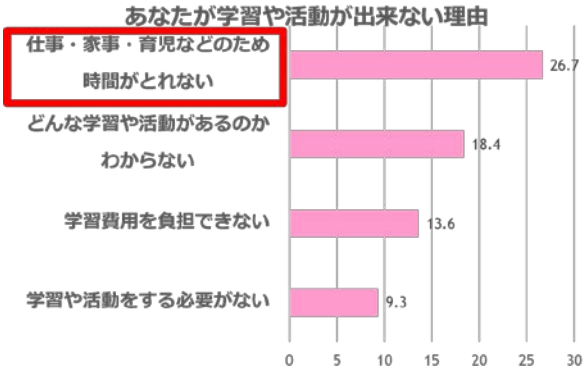
一方で、「今後の学習場所や学習形態の調査において、あなたが今後、学習や活動をするとすればどのような場所や形態で学習したいと考えますか。」の質問に対しては、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座等」が 19.6%となっています。

今後の学習活動においては、公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座等を希望する答えが上位となっており、今後は公共施設を利用した学習活動が望まれていることがわかります。

図 13：令和 2 年度沖縄県生涯学習に関する県民意識調査（令和 3 年 3 月沖縄県教育委員会）







24 時間利用可能な学習施設について、利用形態は会員登録制とします。料金については、町民と町外で料金を区別します。また、利用設備については、ＰＣ、プリンター、Ｗｉｆｉ等を整備し、PC を利用したオンライン学習や、資料作成、また、プリンターも利用可能とすることで、必要書類の印刷等も行えるようにします。

管理体制については、民間委託を行い、民間が持つ、専門的知識や管理マニュアルを活用することで、利用しやすい学習環境の整備に努めます。

(4) 施策の展開により見込まれる効果について

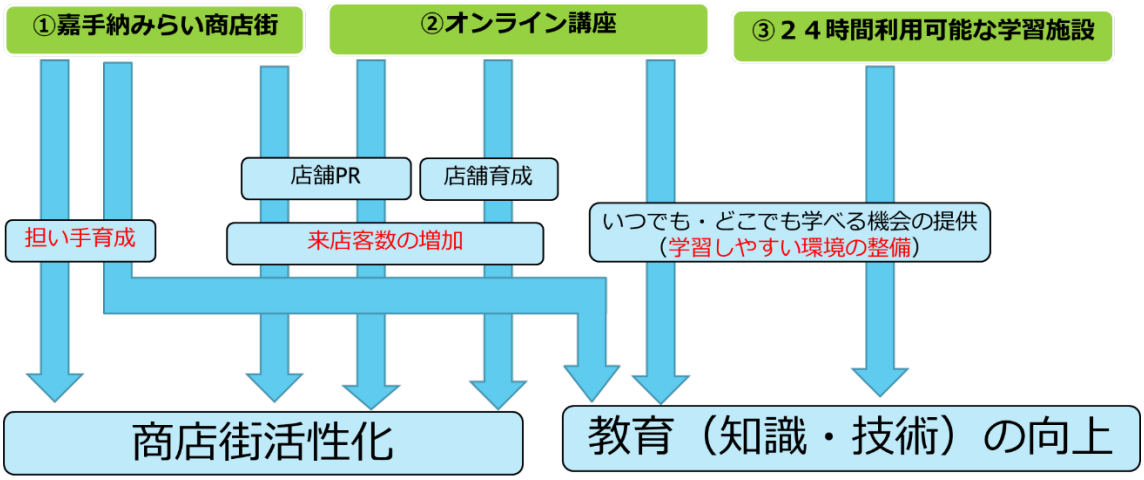
以上、これら 3 つの施策を展開することにより次の効果が期待できます。

「嘉手納みらい商店街」は担い手育成や店舗 PR に繋がり、商店街の活性化と子どもたちの知識・技術の向上に貢献します。

「オンライン講座」は店舗 PR や店舗育成に効果的で商店街の活性化に寄与し、またいつでもどこでだれでも学べる機会の提供により町民の知識・技術の向上を図ります。

「24 時間利用可能な学習施設」はいつでも学べる機会を提供することにより「知識・技術の向上」をはかります。

図 14：3 つの施策とその効果



4　おわりに

インターネットを活用したオンライン講座等の実施や24時間利用可能な学習施設の整備を行い、あらゆる年代への学習機会の提供や町民のニーズに沿った学習支援、学習しやすい環境の整備等に取り組み、町民の生涯学習活動を推進するほか、「嘉手納みらい商店街」を実施することで、商店街を活用した人材育成や地域産業の担い手育成及び商店街の活性化を図り、理想とする「子供から大人まで学び続けるまち、学びから産業が活発になるまち」の実現を図ります。

5　最終報告会での質疑応答

Ｑ１	仕事・家事・育児等で学習時間が無い方は日中以外も時間がない場合が多い。ここをサポートする仕組みはありますか。
A	町立保育所での一時預かり（8：30～17：00）や「ファミリーサポートセンター」等といった子育て支援事業と連携することが考えられます。また、「ファミリーサポートセンター」の預かり保育を行う人（まかせて会員）は嘉手納町の地域住民で組織されているため、地域全体で住民の生涯学習を支援することも可能かと考えます。
Q2	町立図書館、他生涯学習施設との連携や活用についても議論として出ましたか。（例　電子図書の貸出など）
A	学習環境（ＰＣ、机、テーブル、wifi、複合機等）が整っている、マルチメディアセンターやかでな未来館を使用する事を想定して施策提案しており、図書館や他生涯学習施設との連携や活用までは議論しなかったです。しかしながら、意見の通り、図書館や他学習施設と連携することで、図書や電子図書の貸出が行え、より充実した学習支援を行えると感じましたので参考にさせていただきます。

施策提案②オンライン講座について	
Q3	どのようなオンライン講座を想定していますか。
A	現在実施している、中央公民館の各種講座及びかでなまちゼミ等、対面式で実施している講座をオンライン講座（オンデマンド配信含む）でも実施する事を想定しています。また、新たにＰＣのタッチタイピング講座、ワード・エクセル講座、プログラミング講座やマナー講座等、職業に生かせる講座を想定しており、講師は町内で事業展開している企業等に講師を依頼することで、地域の人材を活かした講座の実施を想定しています。
施策提案③２４時間利用可能な学習施設の整備について	
Q４	午前４時に利用する方は誰（どのような方）を想定していますか。
	理想での提案となっているが、ＥＢＰＭに基づく政策提案としなかった理由は。２４時間利用A可能な学習施設の提案について、２０代～４０代のスマホ普及率はほぼ100%に近いですが、ターゲット層はどの世代でしょうか。高齢者では深夜の利用は厳しいと考えますがお答えお願いします。
	インターネットを活用したオンライン講座の提案は、いつでも受講できる点でとても良いと思うが、２４H利用可能な学習施設の整備の必要性ははたしてあるのでしょうか。深夜（睡眠時間に）に学習できるのでしょうか。防犯面も気になります。
A	利用ターゲット層は、受験を控えている学生や資格取得を目指している社会人、また、商店街の飲食店等といった日中・夜遅くまで働いている住民などを想定しています。 根拠としては、内閣府や沖縄県において実施した生涯学習のアンケートの結果から、８割の方が生涯学習を行いたいと思っており、その一方で仕事・家事・育児のために時間が取れない方が多くいることがうかがえたため、オンライン講座や２４時間利用可能な学習施設の整備を提案しました。 様々な職種の多様な勤務形態を考えると、必ずしも夜が睡眠時間となっていない方もいらっしゃいます。２４時間利用可能な学習施設のニーズは測れておりませんが、世代や環境に左右されず全ての方が十分な学習を行える環境を整える事が重要だと認識しています。 防犯面については、警備会社へ委託契約することで、防犯上のリスクを軽減します。

Ⅲグループテーマ
嘉手納リベンジャーズ
～町民の“声”をカタチに～

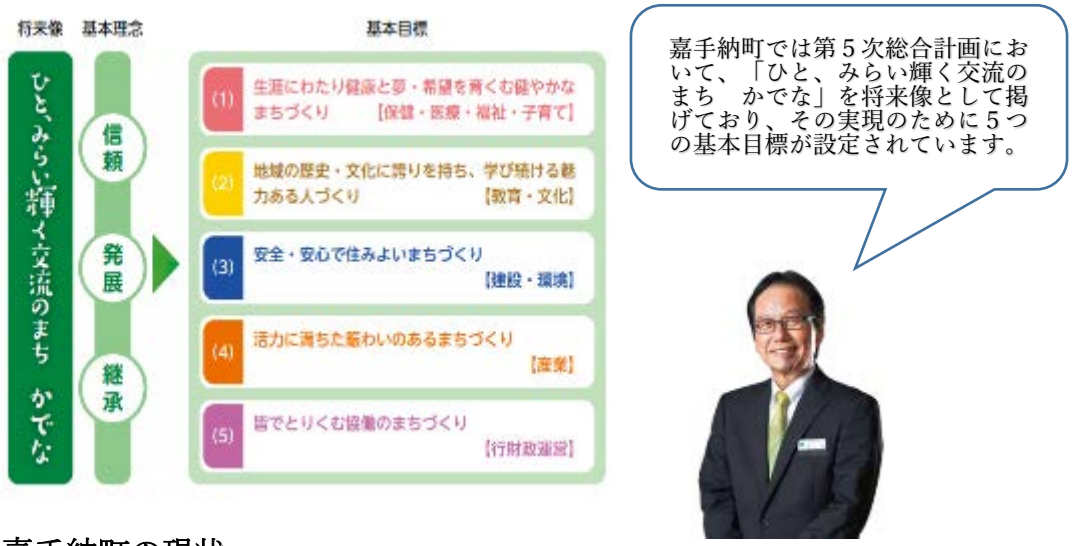
チームキャンキャン　メンバー

嘉手納町	企画財政課	喜屋武　将
北中城村	住民生活課	照屋　愛莉
宜野湾市	人事課	下地　咲貴
中 城 村	こども課	花城　圭亮
北 谷 町	企画財政課	屋比久　徳樹

１　テーマ設定の経緯・背景

嘉手納町は第５次総合計画にて、「ひと　みらい輝く交流のまち　かでな」を将来像として掲げており、その実現のために５つの基本目標が設定されています。そのひとつである「生涯にわたり、健康と夢・希望を育くむ健やかなまちづくり」は町民の関心も高い分野となっております。

嘉手納町の喫緊の課題として『人口減少』が挙げられており、今後さらに少子化の進行が予測されることから、人口減少の解消につながる福祉等の分野に関する支援策について検討し、「ひと　みらい輝く交流のまち　かでな」の実現に近づけるにはどうしたらよいか可能性を探ることにしました。



２　嘉手納町の現状

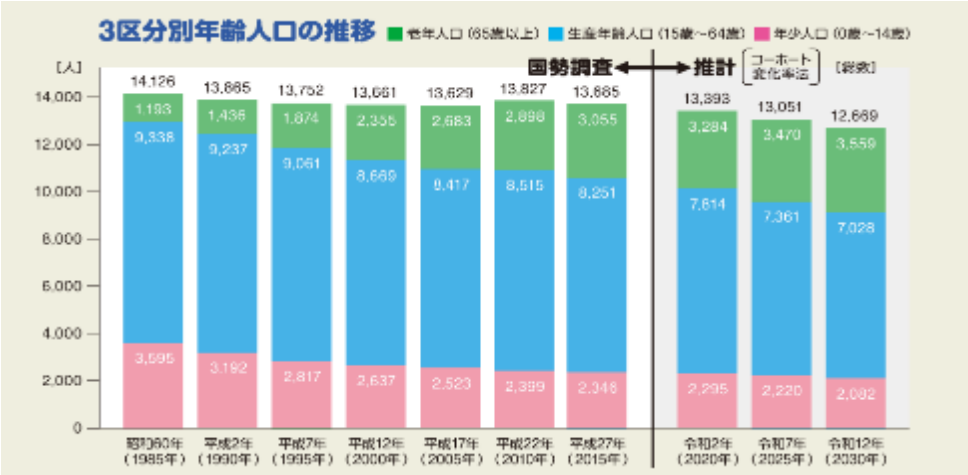
嘉手納町を今後より住みよい街にするため、現状について、人口、福祉分野、医療、町民ニーズに分類し調べていくことにしました。

（1）人口

人口は昭和 60 年の 14,126 人をピークに年々減少し、令和４年８月末現在では 13,228 人となっており図の推計を上回るスピードで減少しています。

生産年齢人口と年少人口は減少傾向にありますが、老年人口が年々増加しており少子高齢化が進行しています。

この推計値のまま人口が推移すれば令和 12 年までには人口が 13,000 人を下回ることになります。



（出典：嘉手納町総合計画（概要版））

（2）福祉等の分野

下の表は福祉等の分野についてまとめたものです、子ども医療費助成事業、小・中学校給食費無償化事業等施策が充実している状況が確認できます。

母子保健・子育て環境	
・子ども医療費助成事業 ・特定不妊治療費助成事業 ・産後ケア事業 ・子どもフッ化物塗布助成事業	・ファミリーサポートセンター事業の支援 ・放課後児童健全育成事業の拡充 ・児童家庭相談の実施

教育・保育	
・小・中学校給食費無償化事業 ・小・中学校教材費一部無償化事業 ・ファミリーサポートセンター事業の支援 ・子育て支援センターの実施 ・英語強化事業の推進 ・ICT整備事業	・パソコン指導員配置事業の実施 ・学習指導員配置事業、生活指導補助員配置事業 ・特別支援教育支援員配置事業 ・秋田県学習体験交流事業 ・コミュニティ・スクールの導入及び推進 ・教材費の一部助成

（3）医療施設

医療機関の現状について確認したところ、人口１０万人あたり医療機関数で全国平均を下回っており、産婦人科、眼科、耳鼻科の診療所は一つもないことが分かります。（※眼科、耳鼻咽喉科については町内の総合病院で医療を受けることができます。）

総合病院には産婦人科系診療所・病院の産婦人科はないので、町内で医療サービスを受けることができない現状となっております。

人口１０万人あたりの医療機関数

区分	中部圏	嘉手納町	全国平均
内科系診療所	33.73	7.4	44.81
外科系診療所	15.6	7.4	19.09
小児科系診療所	16.49	7.4	17.16
産婦人科系診療所	3.34	0	3.78
皮膚科系診療所	11.52	7.4	9.92
眼科系診療所	6.06	0	6.39
耳鼻咽喉科系診療所	4.09	0	4.58
病院	6	7.4	6.49
歯科	42.32	36.98	53.79
薬局	37.89	14.79	47.76

※日本医師会地域医療情報システムより抜粋

町内の医療機関

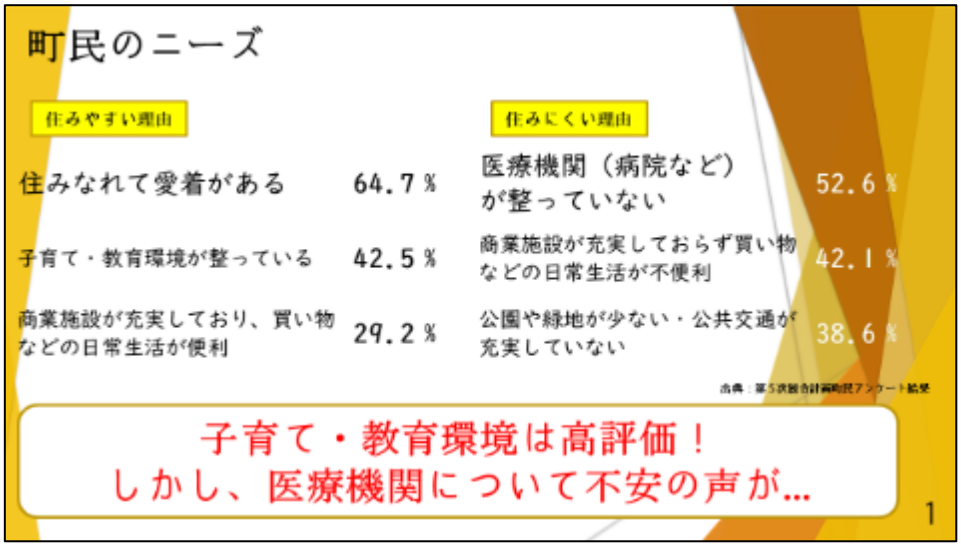
- **名嘉病院**
- **知花歯科医院**
- **山内矯正歯科クリニック**
- **みずがま歯科**
- **ロクト整形J2**
- **野村ハートクリニック**

ほとんどの区分において医療施設が全国平均以下！

(4) 町民ニーズ

町民のニーズを把握するため、町民アンケートに着目しました。

子育て環境において高評価を得ている一方、医療環境に不便を感じていることがわかります。



まとめ

現状についてまとめると下記のとおりです。

人口	年々減少しており、主な要因は転出超過による社会減。
福祉	特定不妊治療、子ども医療費助成や給食費無償化などを複数実施し、支援は充実していると考えられる。
医療	人口１０万人あたりの施設数において、嘉手納町はほとんどの区分で全国平均以下。
ニーズ	子育て・教育等福祉が充実している一方で、町民は医療機関（病院など）が整っていないと感じている。

３　現状から見える課題

以上のことから、私たち班が考える現状から見えた嘉手納町にとっての重要な課題は「人口減少」です。

なお、人口減少の中でも特に課題となるのが若年層（生産年齢）の転出です。

現状でも説明したとおり、人口は年々減少している一方、年齢について内訳を見てみると、65 歳以上の人口の割合は年々増加傾向にあります。

人口減少の主な要因となっている転出についてはほとんどが若年層（生産年齢）であり、少子高齢化も増々進行することが予想されます。また、人口減によって税収が減少し、行政サービスが低下する恐れもあります。

４　人口が減少する要因・課題解決には？

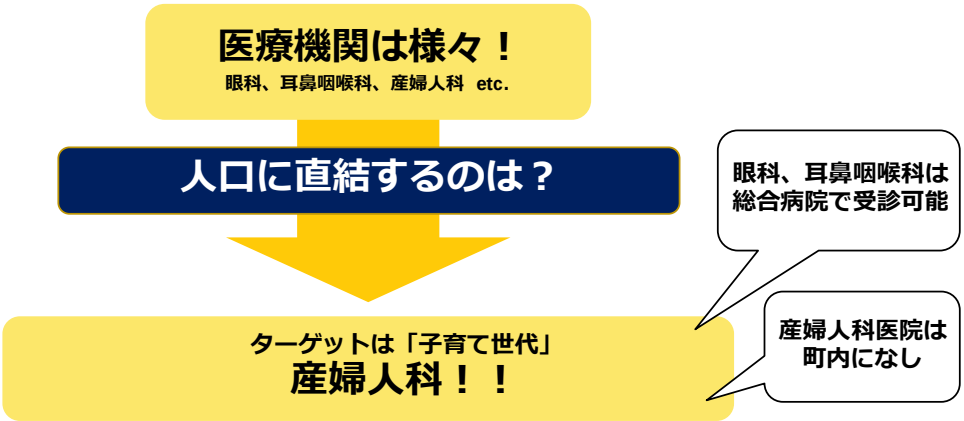
人口が減少する要因としては、雇用先が少ない、住む土地が少ない、商業施設が少ない、医療機関などとのアクセス性が悪いなど多岐にわたるため、これらの要因のうち私たち班は町の現状から見えてきた医療機関の整備・拡充に的を絞り、支援策を検討することとしました。

５　仮説

町民のニーズ、医療施設の状況から、町内の医療機関が充実することで、人口減少の問題解決につながるのではないかと考えました。

しかし、医療機関は様々あることから、今回は人口増加に大きく寄与する子育て世代をターゲットとし、さらに眼科、耳鼻咽喉科については総合病院にて受診できることから、町内で医療サービスを受けることができない、産婦人科に着目しました。

仮説 医療機関の充実により人口減少の問題解決につながるのでは？？



産婦人科医院が町内にできることで人口減少の問題解決へとつながる例として、「自宅との距離を理由に転出していた可能性のある子育て世代の転出が抑えられるのではないか？」、「これまで町内に無い産婦人科医院ができることで利便性が向上し、子育てのしやすい街、住みよい街として出産を考える夫婦の転入を促すのではないか？」、「嘉手納町は産後の子育て支援が充実していることから、出産後も引き続き住み続ける可能性があるのではないか？」というものです。以上により、産婦人科医院の存在によって生活の質が向上し、より住みよいまちにつながると思います。

次に、この仮説を検証していきます。

例えば

●転出抑制

→産婦人科医院が町内にできることで、自宅との距離を理由に転出していた可能性のある子育て世代の転出が抑えられるのではないか？

●転入・定住促進

→産婦人科医院を誘致することで利便性が向上する。また、嘉手納町は産後の子育て支援が充実していることから、結果として嘉手納町で子育てをしたい！と思う方々が増えるのではないか？

距離が近いことは女性にとって嬉しい！

嘉手納町の充実した子育て支援の強みも活かせる！

６　子育て世帯へのアンケート

先ほどの仮説を確かなものにするため、嘉手納町の子育て世帯を対象にアンケート調査を実施しました。

対象となる約 170 世帯のうち、113 件の回答があり、まとめると次ページのとおりとなります。

アンケートの結果からも仮説となっている産婦人科の誘致については、子育て世帯のニーズに合致することがわかりました。

アンケートまとめ

- **子育て支援拡充により子どもの数が増える可能性あり**
- **産婦人科医院を選ぶ際に重視する項目として多く挙げられているのが“自宅からの距離の近さ”**
- **産後で困ったこと第１位“近くに医療機関がない”**
- **子育て環境整備で力を入れてほしい項目第１位“産婦人科・小児科などの医療機関充実”**
- **子育てに関する政策が充実しているが、産婦人科・小児科がなく不便に感じている**

７　近隣の産婦人科の距離などを調査

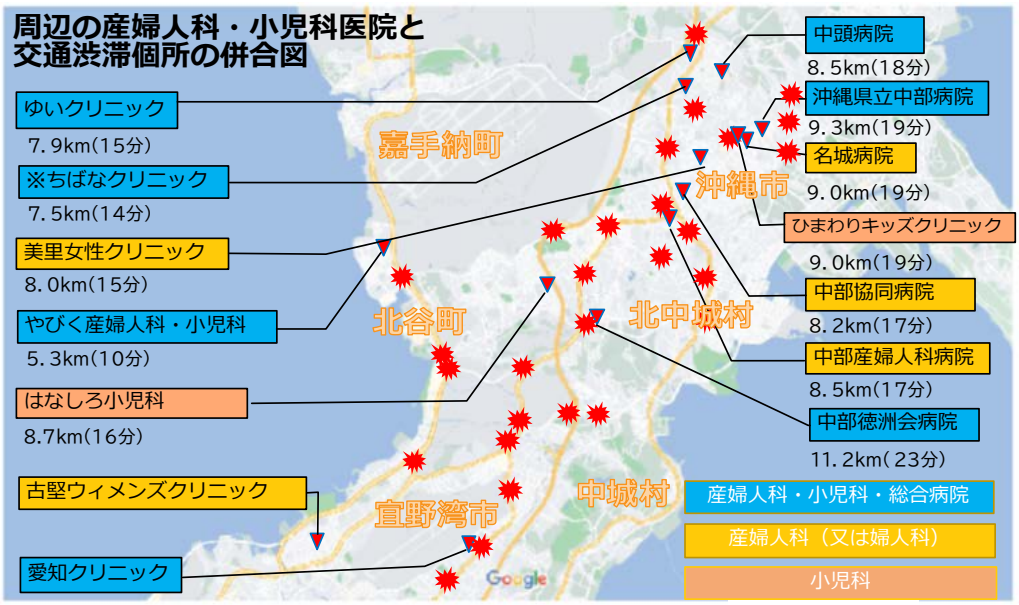
町民が利用する産婦人科・小児科の距離についても調べてみました。

町周辺の病院は図のとおりとなっており、嘉手納町役場から最も近い「やびく産婦人科・小児科」までが５キロ超となっております。

産婦人科医院がない嘉手納町においては、町民が一定時間を移動に費やしていることになり、町民のニーズと現状が合致していることが分かります。

また、図を見ると産婦人科医院や小児科医院へ行くにあたって、主要渋滞箇所を通る可能性は高く、主要渋滞箇所でなくても普段の運転の中で、渋滞しやすい道路を通る必要があるため、必ずしも図に表示されている時間につくとは限らないため、緊急時には重要な問題となります。

なお、小さい子はよく体調を崩すため、アンケートのご意見でもあったように、近くに小児科などすぐに対応できるような施設があることで、町民の利便性が向上すると考えられます。



８　政策提案「小児科を併設した産婦人科医院の誘致」

以上の現状および課題から、より住みよい街にするために必要な政策として、「小児科を併設した産婦人科医院の誘致」を提案します。

提案した政策を実現するため、場所の選定、先行事例、事業スキーム、誘致後の展開を検討しました。

(1) 候補地

町域が狭くまとまった土地のない嘉手納町では民間事業者主導で医院を開設することは困難であると予想されるため、活用されていない町有地等の有効利用を検討。また、産婦人科医院誘致のためにはまとまった土地が必要であることから、現在活用されていない公民館跡地を候補地としました。

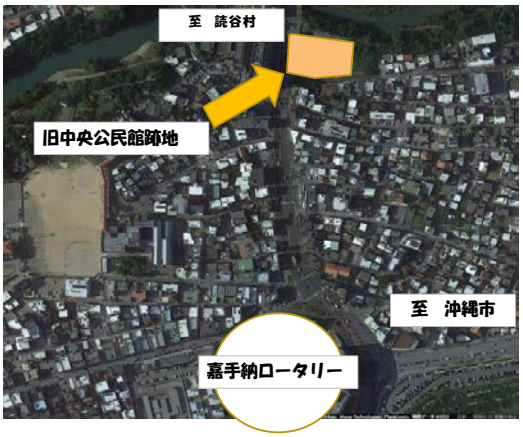
本候補地の面積は約 3,400 ㎡、近隣のやびく産婦人科は約 1,600 ㎡であることから、面積としては充分であると考えます。

次に用途地域についてですが、容積率 200%、建ぺい率 60%の第 1 種住居であることから、病院を建てることは可能となっております。

アクセス性に若干懸念は残るも、他市町村への移動時間と比較すると移動にかかる時間は大きく短縮すると思われます。

敷地面積　約3,400㎡
用途地域　第1種住居

建ぺい率　60%
容積率　200%



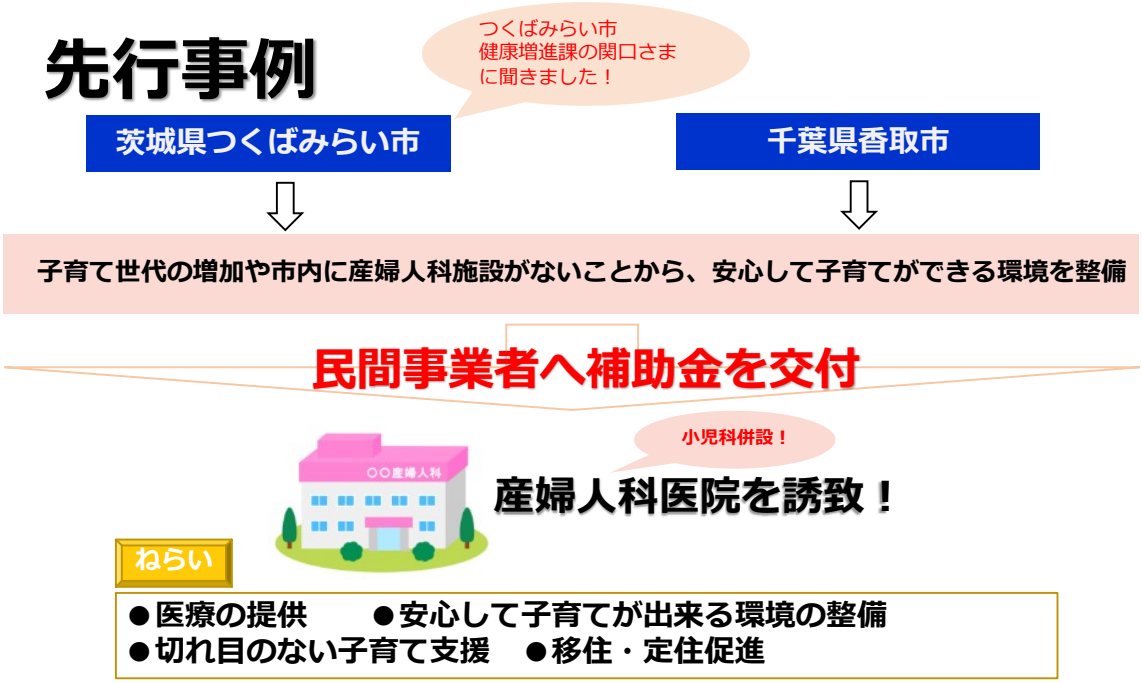
(2) 先行事例から

先行事例として千葉県の香取市と茨城県のつくばみらい市などがあり、今回はつくばみらい市にヒアリングを行いました。

つくばみらい市では、嘉手納町と同様に市内に産婦人科医院はなく、隣接する市町村を利用している実情でした。

切れ目のない子育て支援や市民が安心して子育てできる環境を整備するため、用地取得等に掛かる費用として、最大 5,000 万円の補助を行い誘致に成功し、現在は開業に向けて進んでいる状況となっております。

以上のことから、本政策提案は住みよい街に向けた取り組みとして高い期待値を有しており、自治体の支援が大きな役割となっていると考えます。

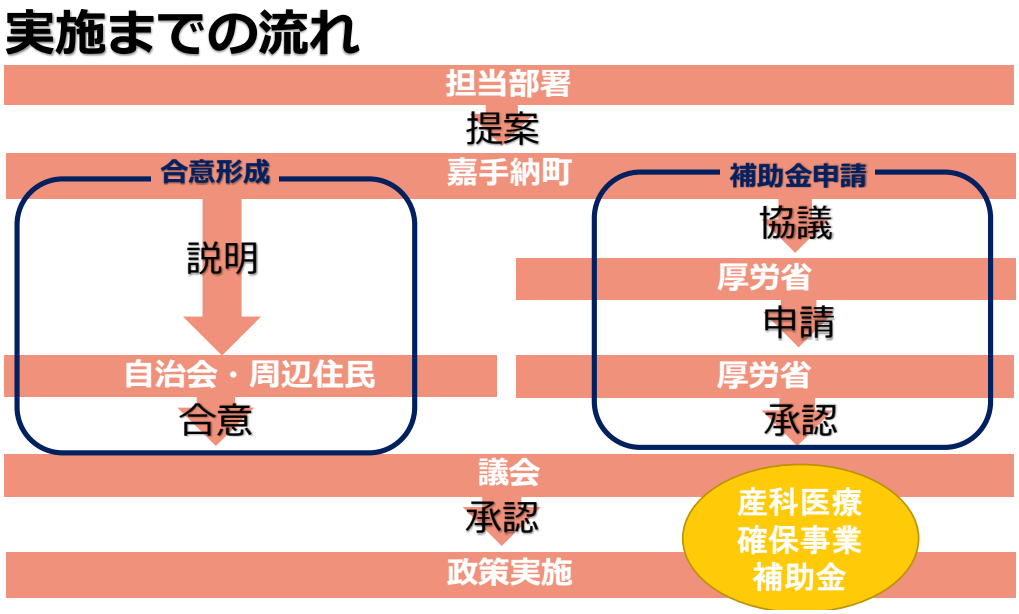


(3) 実施までの流れ

次に政策実施までの流れです。

実施にあたり、町民や議会の同意は不可欠であるため、町が住民へ誘致に関する説明を複数回行い、住民の合意並びに議会の承認を得ることが重要です。

政策実施に財源については、「産科医療確保事業補助金」など関係省庁・県の補助金を活用します。



(4) スキームイメージ

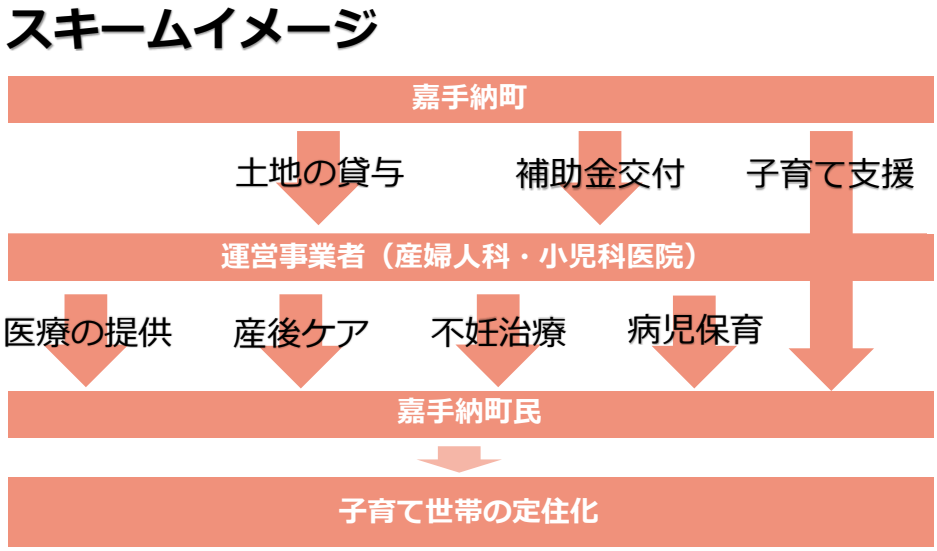
続いてスキームのイメージになります。

先行事例で申し上げたとおり、自治体による支援が誘致実現へのカギとなることから、病院側にも魅力を感じてもらい、また、複数の申請からより良い病院を選定するためにも、運営事業者を公募型プロポーザルの方法により選定します。

選定した事業者に対し、町は土地の貸与及び建設費用の補助を行います。

事業者は町が提示する条件に基づき、通常実施する医療のほか、「不妊治療」「産後ケア」「病児保育」などを包括的に実施していただきます。

町民が安心して出産・育児が出来る環境を整備することで定住化を図ります。



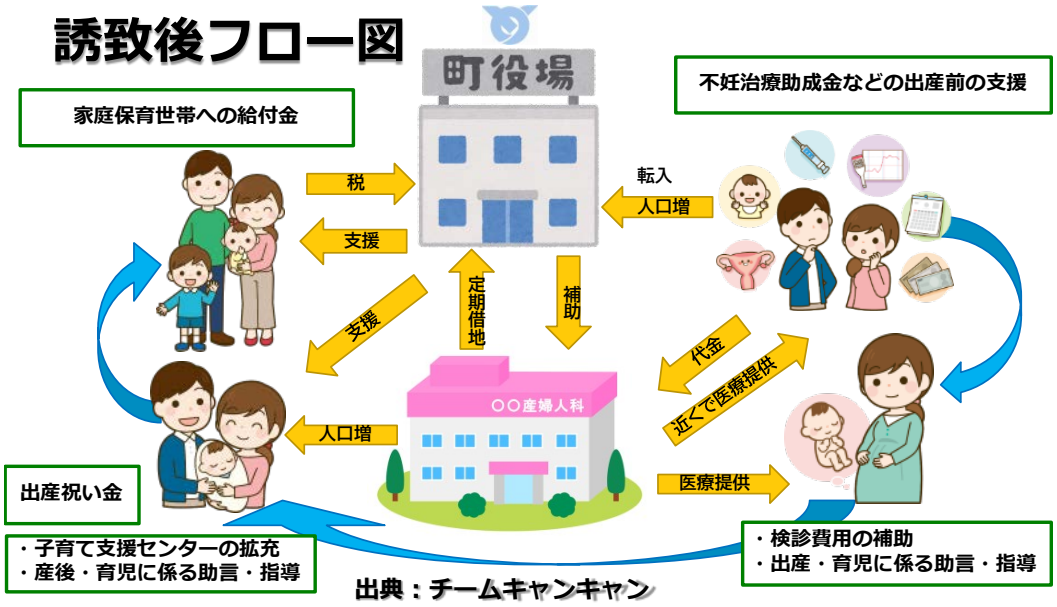
（5）誘致後の展開

今回の政策提案では、医療機関を誘致することで人口減少を解消することを目的としており、産婦人科医院の誘致後の流れを表すと図のとおりとなります。

不妊治療助成金、検診費用の補助、出産に係る助言・指導など、これから子供を考える世帯、妊娠中、産後の各時期における包括的な支援を実施し、町内で妊娠から出産、育児がしやすい環境を整備します。

また、給食費及び教材費一部が中学まで無償化のため、子育て世帯の転入並びに定住化が期待できます。

さらに、近年の街づくりにおいて、職住近接型や育住近接型のコンパクトなものが求められる傾向もあり、医療・福祉・行政を集約することで町民の利便性向上にもつながると考えます。



（6）誘致後の展開　子育て支援事業①

また、アンケート調査の結果、嘉手納町の政策についてあまり知らないと回答いただいた方が一定数見受けられたため、既存の周知方法に加えて、新たに SNS の活用についても、提案します。

具体的な内容につきましては、嘉手納町などの特定のハッシュタグをつけて Instagram、Twitter 等 SNS に投稿することで、嘉手納町商品券などの特典がもらえるようにすることで、情報発信の強化を図るものです。

これにより、①若者を中心に情報が広く伝わり、②政策だけでなく様々な情報取得にもつながります。③また、新たなコミュニティ形成への発展と④嘉手納町商品券の活用により地域産業の活性化にも期待できます。

商品券は既存の野國總管商品券を活用することで、すぐに開始することができ、状況に応じて臨機応変な対応ができることも魅力だと感じます。

なお、商品券プレゼントは投稿者全員ではなく、抽選方式とし、フォロワー数に関係なく、結果については毎月１０人程度のペースとし、選ばれた投稿は、公式アカウントにて投稿していくことで、盛り上がり、参加したくなるような仕組み作りが理想的と考えます。

（7）誘致後の展開　子育て支援事業②

出産だけでなく、産後も夫婦には大変な毎日が待っており、「買い物」もその１つと思われます。

母親が生後間もない赤ちゃんを連れながら買い物する姿を見かけることも珍しくありません。

しかし、一度に大量に買いだめすることは容易ではなく、おむつやミルクなどの消耗品は直ぐに補充しなければなりません。

昨今、お年寄りなどの買い物弱者への取組として、公民館での出張スーパー（北谷町栄口区）や、トラックでの移動販売が行われていますが、産後の母親もまた買い物弱者と言えるのではないでしょうか。

そこで、提案するのは赤ちゃん用品に特化した配達、その名も「ママゾン」です。

仕組みとしては、スライドのとおり、専用アプリにて欲しい商品を購入、支払いに野國總管商品券の利用が可能です。

配送状況、商品レビュー、定期購入など取り入れ、アプリ一つで完結することで実用化に至るのではないかと考えます。

9　提案した政策と SDG s の関係性

続いて、産婦人科医院の誘致と SDGs の関係についてです。

私たち班は今回、SDGs のどの目標に合致しているか？ではなく、SDGs の考え

方である、「持続可能」に着目しました。

図のとおり、産婦人科医院誘致により、人口増加をはじめ、町民の生活を豊かにする反面、「事業に伴う歳出増加」や「建築によるエネルギーの消費」などの悪影響も同時に発生すると思われます。そこで、トレードオフとして、それぞれの解決方法について検討いたしました。

政策に伴う問題のうち、事業の実施による歳出については、人口の増加により税収も増加することで解消、建築に伴うエネルギー消費については、医院屋上を緑地化、庭園などにすることで、屋内の温度上昇抑制や省エネ効果につながり解消。また、来院者が利用することでリラックス効果も期待できます。

実施後も「経済・社会・環境」に影響なく持続していくサイクルを検討していくことが今後より重要と考えます。

１０　成果目標

最後にこの政策の成果目標ですが、図のとおり４つの区分に別け、それぞれの目標達成を目指します。

政策実施により、「ひと　みらい輝く交流のまち　かでな」の実現を目指します。

成果目標（効果）

人口	開設から５年間で人口減少から増加への転換 かつ人口13,500 人達成、生産年齢人口割合 60%
出生率	開設から５年間で希望出生率 1.9 人達成
子育て環境	子育て世帯の満足度向上 (誘致後に子育て環境が向上したと回答する人が全体の８割以上
定住	64歳以下の町民で 10年以上住み続ける人の割合 8割

嘉手納リベンジャーズ

１１　報告会における質疑への回答

Ｑ１	トレードオフの着目は良かったです！コロナ過で子育てへの閉塞感が増し、孤立・孤独化も進行している感がありますが、アプリ利用によるトレードオフの解消はありますか？
A	アプリにて、レビューやチャット機能を取り入れることで、情報交換等をとおして、コロナ禍でもコミュニケーションをとることで、孤立・孤独化の解消が図れるのではないかと考えます。
Q2	産婦人科を誘致する際のハードル（総合病院なら病床数）はありますか？
A	プロポーザルにより多くの事業者（病院）から応募があるか、定借後も引続き事業継続となるか
Q3	アンケート、先行事例自治体への聞き取りにより具体性が出てたと思います。アンケートを行うにあたって工夫した点などはありますか？
A	時間を取らせないよう質問事項を厳選し、誘導とならないよう注意した
Q4	グループ員の職務経験等が議論の役に立った事例はありますか？
A	産婦人科医院の誘致先として、当初は国有地が候補地として挙げられたが、建築制限等から困難であるなど、職務経験が活かされた。また、出産を経験した班員がいたことで、有意義な議論を交わすことができた。
Q5	先行事例の地域は、人口が増えているのか教えていただきたい。
A	つくばみらい市では、未だ産婦人科医院の開設に至っていないため、人口増加につきましては、現時点では明らかとなっておりません。2021 年 6 月 26 日の日本経済新聞の記事では、子育て支援の拡充などで人口を増やした市町村が約 300 自治体あったと掲載されており、人口増加の著しい市町村においては、共通して子育て支援に力を入れていることから、本政策提案は人口増加に寄与すると考えております。
Q6	産婦人科の誘致について、どのように募りますか？
A	より良い病院（医療、設備、人員、経歴、資金）を選定するために、公募型プロポーザル方式の採用が最も適していると考えます。
Ｑ７	「人数×１人あたりの消費単価×滞在時間」における現在の状況（数値？）があれば教えてください。また、今回の提案における目標数値があれば教えていただきたいです。
A	ご指摘の通り、令和３年度の「嘉手納町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、嘉手納町の合計特殊出生率は 2.05％となっており、確認不足となっております。今後は、各種資料を確認し、適切な数値の設定を行ってまいります。

ゆがふう塾に参加して

所　　属	グループ
沖縄市　文化芸能課	チームレッド

番　号	氏名
427	平良（たいら）　実可子（みかこ）

採用されてから日々の業務に追われ、まちづくりについてほとんど考えることはなかったので、ゆがふう塾は貴重な時間となりました。

自主研修では、集まるごとに様々な提案や意見があり、まとめるのに時間はかかりましたが、最終報告会で良い提案をしたいという目標に向かってチームでベストを尽くすことができたと思います。とても良い刺激を受けました。

塾長や講師の皆様、中部広域市町村圏事務組合の皆様、24 期生の皆様、そして本研修へ快く送りだしてくれた職場の皆様に感謝申し上げます。

所　　属	グループ
うるま市　水道総務課	チームガリレオ

番　号	氏　　名
428	比嘉（ひが）　健人（けんと）

ゆがふう塾に参加して、講義を通しての学び、学んだことを活かしての自主研究、他市町村の職員との交流など、とても刺激的で充実した期間を過ごすことができました。グループでの自主研究では、発言が絶えることのないグループで、初めの頃はその雰囲気に圧倒されていましたが、徐々に自分の考えを伝えることもでき、最終的にはグループ全員が納得する報告をすることができました。今回のゆがふう塾を通して学んだことはもちろんのこと、テーマ市町村である嘉手納町の魅力を知れたことや、他市町村の職員との繋がりができたことなど、とても有意義な研修となりました。最後に、ゆがふう塾に関わって頂きました皆様へ感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ゆがふう塾に参加して

所　　属	グループ
うるま市　国民健康保険課	チームレッド

番　号	氏　　名
429	平安座（へいあんざ）　大樹（だいき）

前年度参加された先輩から「ゆがふう塾は同年代の他市町村職員と繋がりができる。」と話を聞いていたため、率直に楽しそうと思い、今回の話が来てすぐ参加を決めました。半年間を振り返ってみて知識が疎く大変な部分もありましたが、“わからない部分をどのように調べるか”“自分の意見を相手に理解してもらうためにどのようにまとめ、伝えるか”を一番に学べることができたと思います。通常業務でもゆがふう塾で学んだことを生かせますし、参加しなければ24期生と出会えなかったと考えると本当に参加してよかったと感じています。今後も関係を深め24期生のつながりを大切にしていきたいです。貴重な経験、充実した時間を過ごせました。24期生の皆様、講師の皆様、事務局の皆様、心よくゆがふう塾に送り出していただいた職場の皆様、本当にありがとうございました。

所　属	グループ
宜野湾市　人事課	チームキャンキャン

番　号	氏　　名
430	下地（しもじ）　咲貴（さき）

ゆがふう塾に参加したきっかけは、採用から、ちょうど３年が経った頃に研修担当からお誘いでした。その場ですぐに入塾を決めましたが、内心は不安でいっぱいだったことを覚えています。

全体を通して、業務だけでは経験できない濃い内容ばかりで、時間が進むにつれて、自分の知識のなさを痛感しました。また、普段の業務でまちづくりを意識することがほとんどなかったため、これからの自分自身の仕事に対する向き合い方も変わっていけたと思います。

後半の自主研究期間は、突発的な業務が増え、思うように参加することができませんでしたが、メンバーの皆様に助けてもらいながら、無事最終報告会を迎えることができました。３グループの皆さまには、大変お世話になりました。

最後に、宮平塾長をはじめ、講師の皆様、事務局の皆様、協力してくださった職場の皆様、24期生の皆様へ心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ゆがふう塾に参加して

所　　属	グループ
宜野湾市　税務課	チームガリレオ

番　号	氏　　名
431	平良（たいら）　拓真（たくま）

今回ゆがふう塾に参加することで、地方自治について学べ、いろいろな知識や視点、考え方を学ぶことができとても勉強になりました。また、他市町村の方と交流ができ、多くの刺激を受けました。グループ活動では、周りのすごさに圧倒されることもあり、これからより自己研鑽し、様々な知識やスキルを身につけ活躍できる人材になれるよう頑張りたいと思いました。自主研究では、課題の抽出、施策の発案、エビデンスやアンケート収集等の発表にむけた準備で何度もグループで集まる必要があり、自分の業務との調整等が大変でした。しかしながら、最終発表にむけ資料が完成し、発表を終えたあとには、非常に達成感があり嬉しかったです。また、ゆがふう塾をとおして大きく成長できたと思います。参加できて嬉しいです。

所　属	グループ
北谷町　企画財政課	チームキャンキャン

番　号	氏　　名
432	屋比久（やびく）　徳樹（あつき）

自らゆがふう塾参加を希望した職員が多い中、実はそうでなかった私は初日から不安で仕方なかったのを覚えています。しかし、交流を深める中で、不安なのは皆同じであることを知り、安心しました。

グループの中で最年少、経験年数も一番浅い私がグループリーダーを務めることができたのは、知識と経験が豊富な優しいメンバーの支えがあったからこそだと思っています。また、充実した研修を送れるよう支えていただいた課の皆様、実務に活かせる講義をしていただきました宮平塾長をはじめとした講師の皆様、調整等見えないところで支えていただきました中部広域市町村圏事務組合の皆様、本当にありがとうございました。

ゆがふう塾に参加して

所　　属	グループ
北谷町　学校教育課	チームレッド

番　号	氏　　名
433	仲宗根（なかそね）　諒（りょう）

参加当初、業務との両立や某ウイルスの感染で入塾式と宿泊研修に参加できなかったことで、不安と緊張がより一層高まっていたことを鮮明に覚えています。しかし、参加メンバー同士すぐに打ち解けることができ、講義や最終報告に向けての自主研修を楽しく学んでいくことができました。

グループにはテーマ市町村である、嘉手納町の参加者がいないということもあり、自主研修で集まる機会が多く大変でしたが、その分、自分にない意見や発想などを得る機会が多かったとも感じています。

最終報告はグループ一丸となったおかげで、いい報告ができました。

最後に、中部広域市町村圏事務組合の皆様、宮平塾長をはじめとする講師の皆様、ゆがふう塾 24 期生の皆様のおかげでとても充実した研修になりました。　本当にありがとうございました。

所　属	グループ
嘉手納町　企画財政課	チームキャンキャン

番　号	氏　　名
434	喜屋武（きやん）　将（ただし）

ゆがふう塾の約半年間、本当に多くのことを学ばせていただきました。

第２４期生の素晴らしいメンバーに恵まれ、何とか最終報告会まで終えることができました。皆様本当にありがとうございました。

このゆがふう塾で感じたのは、メンバーのレベルの高さでした。グループでの自主研究では、私が思いつかないようなアイディアを提案してもらったり、各々担当分野以外の知識も豊富でただただ感心しているうちに企画書が出来上がっていました。グループの皆さんありがとうございました！

宮平塾長をはじめ講師の先生方、ご協力くださった皆様に感謝し、今回ゆがふう塾で学んだ知識や経験を今後の業務に活かしていきたいと思います

ゆがふう塾に参加して

所　　属	グループ
嘉手納町　総務課	チームガリレオ

番　号	氏　　名
435	濱元（はまもと）　勇子（ゆうこ）

始まる前は「私にできるだろうか」と、とても不安でしたが、同期や職場の方々の大きな支えで、最終報告書を提出することができ、非常にうれしく思っています。

自主研究は、現状の把握・課題抽出を行い、それに対して有効な施策の提案を行うため、現状調査やアンケート、ヒアリング等多岐にわたり、今まで経験した事がない事の連続でとても新鮮でした。新型コロナや家庭の事情で、十分な活動が難しい場面もありましたが、リーダーとしての役割を笑顔で支えたくれたグループの皆様にも心から感謝いたします。

この経験を今後の業務に活かし、「ゆがふう塾で学んだこと」が成果として現れるよう取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、塾長をはじめ講師の皆様、中部市町村圏事務組合の皆様、ゆがふう塾に送り出してくれた職場の皆様、調査にご協力いただいた皆様、そして同期のみなさん、本当にありがとうございました。

所　属	グループ
西原町　文化課	チームガリレオ

番　号	氏　　名
436	上里（うえざと）　幸（ゆき）

ゆがふう塾に参加して、最初は業務との両立ができるのか、色々と不安はありました。しかし、研修で講師の方々から、多くのことを教えていただき、グループで嘉手納町のことを研究し、政策を考えていく中で、日々目の前の業務に追われてなかなかできていなかった住民が暮らしやすいまちづくりに改めてじっくりと向き合うことができたような気がします。また、自分の中の常識で物事を考えがちですが、グループ研修ということで、他のメンバーに教えてもらい、気づかされる視点や物事が多くありました。

ゆがふう塾で関わった皆様にはとても感謝しています。ありがとうございました。また、大変な中私を送り出してくれた文化課の皆さんにも感謝しています。今後は学んだことを業務に生かしていけるよう頑張ります

ゆがふう塾に参加して

所　　属	グループ
西原町　都市整備課	チームレッド

番　号	氏　　名
437	上里（うえざと）　玄（げん）

ゆがふう塾の 24 期生として 1 班のサブリーダーを務めさせて頂きました。今回の研修では、米軍基地の占める割合が大きな嘉手納町のまちづくりについて、各市町村職員（各分野の業種）の方々と検討することで、日ごろ経験できない意見や考え方に触れることができ、とても良い体験がありました。

また、人脈を広げることにもつながり、今後の職務へ活かせる研修となったと感じています。

所　属	グループ
読谷村　商工観光課	チームガリレオ

番　号	氏　　名
438	大城（おおしろ）　愛士（ちかし）

ゆがふう塾へのお声かけがあった際は業務との両立など心配な部分もありましたが、他市町村の職員と他市町村の発展を考える機会もめったにない機会だと考え、思い切って参加を決めました。参加し、最初のうちは講習なども難しく、塾生同市の関係性もぎこちなく感じたりもしましたが、集まりを重ねていくうちにグループ員をはじめ、塾生みんなとの距離感なども縮まり、徐々に自身のテーマに向けて提案、工夫、補填しながら、取り組むことができました。力を合わせて業務に取り組むことの充実感と新たな繋がりができたこと。また、事業提案やその組み立て方、考え方の学びを経験値として今後の業務や取り組みに活かしていけるよう頑張ってまいります。

ゆがふう塾に参加して

所　　属	グループ
読谷村　住民年金課	チームレッド

番　号	氏　　名
439	当山（とうやま）　智世（ともよ）

５月半ばから５か月間お疲れさまでした。最終報告を終え、今の気持ちは達成感そしてやっと終わったなとホッとしています。

この塾に参加する前は、これからの仕事に活かせるならという軽い気持ちで参加することを決めましたが、実際やってみるとなかなか大変でした。一番難しかったのはメンバー同士での意見のすり合わせでしたが、お互いの不足をフォローし合ったりぶつかったり、大変なことが沢山あった分、この６人でしか作れない報告書が形になって、嬉しかったです。チームの皆、ありがとう。

研修後、村政に興味がわいたり他部署の業務に興味を持つようになり、自分の成長を感じました。今後もこの経験を活かして業務に取り組んでいきます。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

所　属	グループ
北中城村　住民生活課	チームキャンキャン

番　号	氏　　名
440	照屋（てるや）　愛莉（あいり）

私がゆがふう塾に参加したきっかけは、担当課からの声かけでした。私にはない「課題発見能力」を高めること、また他市町村の職員の方とつながりができるということに魅力を感じ参加することを決めました。自主研究が始まると、参加できない日もありグループのメンバーにたくさん迷惑をかけましたが、メンバーの支えもあり無事最終報告会を終えることができました。チームキャンキャンのメンバーは知識豊かで編集技術もあり私自身学ぶことばかりで本当に感謝しています。今回の研修で得た知識や経験を活かし業務に励んでいきます。最後に、宮平塾長を始めとする講師の皆様、調査研究にご協力いただきました関係者の皆様、中部広域市町村圏事務組合の皆様、ゆがふう塾 24 期生の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ゆがふう塾に参加して

所　　属	グループ
北中城村　生涯学習課	チームガリレオ

番　号	氏　　名
441	金城（きんじょう）　徹（とおる）

約半年間にわたる講義や自主研修を通して、新たな知識や様々な物事の捉え方、課題発見能力等、今後の職務に生かせる沢山の知識や経験を得ることができ、充実した研修となりました。最終発表に向けて、グループ一人一人が自分の役割を考え行動し、積極的な発言や活発な意見交換を行えた事で、楽しく研修を終える事が出来ました。また、２４期生の皆様とも交流を持つ事ができ、ゆがふう塾で学んだ経験や繋がりを今後の職務に生かしたいと思います。

最後に、このような貴重な経験をさせていただきました講師の方々や快くゆがふう塾に送り出してくれた職場の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

所　属	グループ
中城村　こども課	チームキャンキャン

番　号	氏　　名
442	花城（はなしろ）　圭亮（けいすけ）

人事係長から本研修参加の打診を受けたのは今年４月の終わりでした。ゆがふう塾を経験した先輩からの前向きな意見や、いつも後先考えもせず断らない性格もあってか、「はい」と二つ返事をしたのがつい最近のようです。

入塾式を終え、５月に初めての研修があり当初本研修が無事終わるか不安でしたが、24 期は年齢層が高めだったこともあってか、勢いと落ち着きが上手くマッチしており、また事務局もとても接しやすく良い雰囲気を作ってくれたことで全体的に上手くまとまったと感じています。

特に同じ班（３班）のメンバーにはとても助けてもらい、自主研究が滞りなく進んだ事や、意見交換を通して得たものが多く自分自身成長させてもらった事に大変感謝しています。宮平塾長をはじめ島袋講師、幸喜講師及び事務局の皆さま大変お世話になりました。今後どこかの場面で一緒にお仕事が出来る事を目標に、引き続き自分の持ち場で頑張ります。本当にありがとうございました。

ゆがふう塾に参加して

所　　属		グループ
中城村　産業振興課		チームレッド
番　号	氏　　名	
443	比嘉（ひが）　由美（ゆみ）	

「ゆがふう塾」、名前は聞いたことありましたが、何をやっている塾なのか知らず、自分が参加することになるとは思ってもいませんでした。

業務との両立ができるか不安でしたが、先輩方から「他市町村の職員の交流できるいい研修だよ」と背中を押され参加したのを覚えています。

実際の講義は毎回新鮮で、前半は宮平塾長をはじめ講師の方々から施策提案に向けての講義やワークショップを通して学んでいきました。

１グループは、個性的なメンバーが揃っており、色々な意見が飛び交うとても良いグループでしたが、後半の自主研究では個性的が強くなり、１歩進んで２歩下がったり、空気が重くなったり明るくなったり、紆余曲折しましたが、発表が近づくごとに「まとめていこう」というみんなの気持ちが高まり、なんとか完成することができました。

最初はとても不安なスタートでしたが、終わってみると、一番みんなで討論し、いろんな意見が聞けて、成長できたのは１グループなのではないかと、個人的には思っています。

最後に宮平塾長をはじめ、講師の皆様、事務局の皆様、塾生の皆様、貴重な経験をさせていただいことに心から感謝申し上げます。

修了式・入塾式

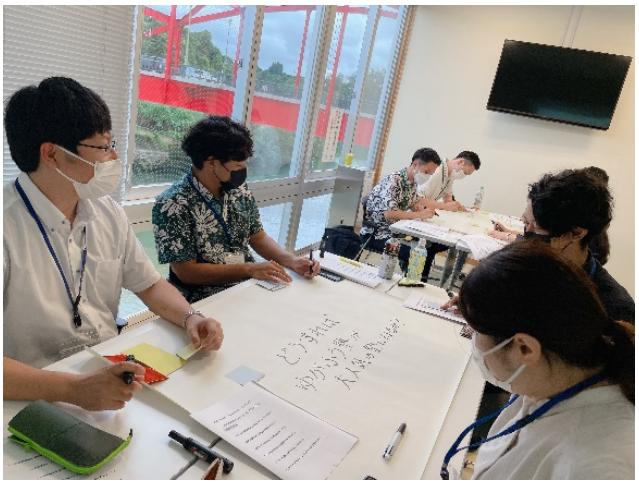
「ゆがふう塾」市町村職員研修事業
和３年度修了式・令和４年度入塾式

「ゆがふう塾」市町村職員研修事業
令和３年度修了式・令和４年度入塾式

宿泊研修

6 月　研修

6 月　研修



7 月　研修

9 月　中間報告

10 月　報告会リハーサル

10 月　最終報告会

嘉手納町のまちづくり

「ゆがふう塾」市町村職員研修事業
令和４年度　ゆがふう塾最終報告会
主催　中部広域市町村圏事務組合

CHUBUKOUIKI
Okinawa
Yomitan
Kadena
Chatan
Ginowan
Nishihara
Nakagusuku
Kitanakagusuku
Urruma
Gmunicipalities